第７回神戸市政フォーラム

●日 時：２００９年１２月１日（火）午後６時３０分～８時３０分
●会 場：神戸市産業振興センター９０１（９階）

第１７回神戸市長選挙総括（第５次案）

「神戸は変わる。」まで、震災復興は終わらない

－“ライトからレフトまで”を堅持して、市民革命の実現を－

市民的に、オープンに
神戸市長選挙の反省と展望を
語り合いましょう。

◆プログラム◆

６：３０　開会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・出口俊一〔事務局次長／司会〕
６：３５　開会あいさつを兼ねて総括（案）の提案・・・・村井雅清〔代表〕
６：５０　特別報告　どうする！神戸空港・・・・・・・・・高田富三〔事務局長〕
７：２０　討論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６人
８：５０　閉会あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・玉川侑香〔代表〕

神戸再生フォーラム

目　　次

１．第１７回神戸市長選挙結果（２００９年１０月２５日投開票）について・・・・・3
１．“選挙結果に対する声明”（２００９年１０月２６日）／*4*
２．市民の意見／*5*

２．選挙総括の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

３．なぜ好機を生かすことができなかったのか（Ⅰ）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１．神戸再生フォーラムが反省すべきは何か[順不同]／*6*
２．神戸再生フォーラムの「要請書」と口頭での意見表明（９月２６日）／*6*

４．なぜ好機を生かすことができなかったのか（Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
－克服できなかった二つの邪心－
１．候補者選考の経過と政党との共同／*8*
（１）１２年間、一貫して日本共産党・新社会党と共同を継続・追求／*8*
（２）突如９月中旬、日本共産党が枠組み離脱⇒独自候補擁立表明／*8*
（３）この４年間の経過からみて、どうして“独自候補擁立”なのか／*12*
（４）神戸再生フォーラムは、どのように候補者選考をすすめてきたのか／*12*

２．候補者の姿勢、戦略・戦術、そして選対はどうであったのか／*13*
（１）候補者の姿勢はどうであったのか／*13*
－樫野孝人氏との懇談会の経過より－
（２）樫野選挙対策本部主流の根強い反神戸再生フォーラム意識と排外主義の弊害／*17*

３．９月中旬、突然の枠組み離脱⇒独自候補を擁立した日本共産党兵庫県委員会／*18*
（１）６１，７６５人をミスリードした岡正信委員長の責任は重大／*18*
（２）独自候補擁立は止むを得なかったのか。また、神戸再生フォーラムが暴走したのか／*19*
（３）何が、候補者一本化を妨げたのか／*21*

５．この４年間・１４００日余、どのように準備し、取り組んできたのか・・・・・・22
１．４年間・１４００日余の取り組みの概要／*22*
２．“７・１８市民決起スタート集会”を皮切りにした３か月の方針と実践／*23*

６．教訓・課題・方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
１．教訓／*32*
２．課題・方向／*32*
【資料１】市民の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
【資料２】「お尋ね」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
【資料３】神戸再生フォーラム会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

２００９年１１月２５日

第１７回神戸市長選挙総括（第５次案）

「神戸は変わる。」まで、震災復興は終わらない

－“ライトからレフトまで”を堅持して、市民革命の実現を－

神戸再生フォーラム

阪神・淡路大震災（大震災）から４回目の第１７回目の神戸市長選挙の総括のため、市民的にオープに議論していく素材を以下の通り整理し、提案します。

１．第１７回神戸市長選挙結果（２００９年１０月２５日投開票）について

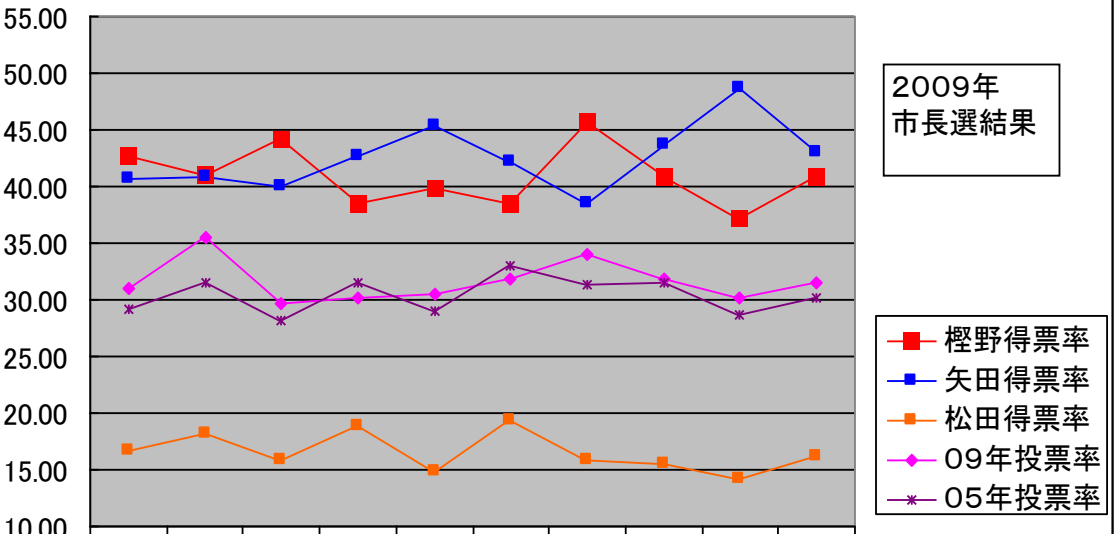
◆矢田立郎：１６４，０３０

◆樫野孝人：１５６，１７８

◆松田隆彦：　６１，７６５

０９年市長選結果									
０９年市長選	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西
樫野得票数	21,185	14,740	12,270	10,327	21,783	9,945	21,075	23,224	21,629
矢田得票数	20,248	14,695	11,126	11,473	24,747	10,903	17,781	24,828	28,229
松田得票数	8,306	6,538	4,424	5,048	8,061	4,989	7,329	8,866	8,204
樫野得票率	42.59	40.98	44.10	38.46	39.90	38.49	45.63	40.80	37.25
矢田得票率	40.71	40.85	39.99	42.73	45.33	42.20	38.50	43.62	48.62
松田得票率	16.70	18.17	15.90	18.80	14.77	19.31	15.87	15.58	14.13
有権者総数	163,972	103,200	95,350	90,849	182,308	82,568	137,394	181,448	194,541
投票率	30.97	35.49	29.60	30.18	30.43	31.79	34.06	31.81	30.23
有効投票数	49,739	35,973	27,820	26,848	54,591	25,837	46,185	56,918	58,062

０９年市長選結果									
０９年市長選	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西
樫野得票率	42.59	40.98	44.10	38.46	39.90	38.49	45.63	40.80	37.25
矢田得票率	40.71	40.85	39.99	42.73	45.33	42.20	38.50	43.62	48.62
松田得票率	16.70	18.17	15.90	18.80	14.77	19.31	15.87	15.58	14.13
０９年投票率	30.97	35.49	29.60	30.18	30.43	31.79	34.06	31.81	30.23
０５年投票率	29.11	31.47	28.15	31.55	29.01	33.07	31.37	31.46	28.71



	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	合計
樫野得票率	42.59	40.98	44.10	38.46	39.90	38.49	45.63	40.80	37.25	40.89
矢田得票率	40.71	40.85	39.99	42.73	45.33	42.20	38.50	43.62	48.62	42.94
松田得票率	16.70	18.17	15.90	18.80	14.77	19.31	15.87	15.58	14.13	16.17
09年投票率	30.97	35.49	29.60	30.18	30.43	31.79	34.06	31.81	30.23	31.51
05年投票率	29.11	31.47	28.15	31.55	29.01	33.07	31.37	31.46	28.71	30.23

１．“選挙結果に対する声明”（２００９年１０月２６日）

神戸市民のみなさん。この選挙に心を寄せていただき、応援していただきました全国のみなさん。

最後まで困難を乗り越えてともに取り組んでいただきました多くの市民のみなさん方に心よりのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

そして、樫野孝人さん、ほんとうにありがとうございました。

２００９年神戸市長選挙において、神戸再生フォーラムが応援した樫野孝人さんは、わずか７，８５２票の差で勝利を得ることができませんでした。

９月３日の立候補表明以降、わずか２か月に満たない間に、「３つのチェンジ」を掲げ、神戸を変えたいという市民の「情熱仕掛人」として樫野孝人さんは全市を駆け巡り、市民が奮起することを訴え、１０月２５日には１５６，１７８人の仲間を集める結果を出しました。

神戸再生フォーラムは、「無駄遣いと出し惜しみの矢田市政」「６０年続く助役出身市長」を終わらせ、多くの市民が求める「市民が主役の神戸に変える」には、樫野孝人さん以外にないとし、機関紙「神戸は変わる。」（第１６号）を発行、９月２７日、応援を正式に決定しました。

樫野孝人さんには要請されたにもかかわらず、残念ながら選挙対策本部から参加を拒まれ、神戸再生フォーラムのメンバーであるというだけで、選挙運動の参加にも妨害がありましたが、基本的な選挙実務の不足した選対スタッフを支え、候補者ビラの証紙貼付、掲示板のポスター貼り、ポスティング、開票立会人の申し出などで貢献することができました。また、政策面・法定ビラ問題等々でアドバイスや協力もさせていただきました。もっと積極的に参加できていたらという気持ちでいっぱいです。

２．市民の意見

事務局に寄せられたメール・手紙、また、集会やブログ・メーリングリスト上での２０人の方の意見を時間順に引用し、紹介します（後掲資料１）。

２．選挙総括の視点

１．樫野孝人候補を応援されたすべてのみなさん方に心よりの感謝を申し上げます。また、今回は止むなく、松田隆彦、矢田立郎各候補を応援されたみなさん方にも、次回の選挙では神戸を変えるためともに取り組まれんことを呼びかけます。

２．「もう少しで変えられる」という希望を持たせてくれた今回の結果ではありますが、当選した矢田立郎、次点の樫野孝人両候補の７，８５２票の差をどのように考えるか。予想以上に大健闘し、肉薄したと考えるか、それともこの程度の差なら、エラーが２～３個減っておれば勝っていたと考えるか。はたまた、得票の中身を分析すると肉薄したと手放しで喜べるかどうか。何れにしても、率直に語られている多くの市民の意見をよく踏まえて、多角的かつ冷静に選挙戦の準備と実践を分析することが必要です。

３．１０月３０日（金）に解散した樫野選挙対策本部では、少なくとも２０～３０個の反省点が指摘されていたとのことです。それらの反省点を改めることは、次回の選挙において勝利する保障になるものです。また、それらの反省点の内容は、選挙戦に関与した一部の人たちの教訓に止めるのではなく、この選挙戦の経緯をまとめ、元気に積極的に情報発信することが求められます。ただ、多くの人たちが神戸再生フォーラムの分析を見てどのように反応されるか、というところも見極めながらということです。従って、情報発信の内容も慎重にすることが必要です。

４．「ほんとうに惜しかった」という無念を次回の選挙にどのように生かすのか。先頭に立った樫野孝人氏への期待は「次回も是非、樫野さんに立ってほしい」との期待に転化しつつありますが、神戸再生フォーラムは、まず自らの反省と出所進退を明確にした上で、今後の展望を打ち出していきます。

５．選挙戦を引っ張った村井雅清（代表）・高田富三（事務局長）・出口俊一（事務局次長）の３人の結果責任についても総括討議の中で、体制の立て直し問題と一体的に議論をしていきます。なお３人の責任については、今回の神戸市長選挙を真面目にかつ真剣に取り組んだ人たちの多大の精神的苦痛を想像しますと、特に何人かの人たちの筆舌に尽くし難い辛い思いを抱かせたことは許されるものではありません。それだけに、まず以上のことを踏まえた冷静な分析と議論をしていかなければならないと考えています。

６．神戸再生フォーラム第８４回拡大代表・事務局会議（１０月２９日）に、樫野孝人氏が出席されました。Ｔ・Ｙ氏がこの間の苦汁について語り、Ｋ・Ｊ氏も涙ながらに表現され、その上で樫野氏は「社会は変わっています。これからも変わるでしょう。“神戸再生さん”は変わることができるでしょうか？」と投げかけられました。

樫野氏の問題提起の意図とは関係なく、神戸再生フォーラムが今後どうあるべきかを真剣に議論

をしていくことが必要です。

３．なぜ好機を生かすことができなかったのか（Ｉ）

１．神戸再生フォーラムが反省すべきは何か[順不同]

１．止むを得なかったとはいえ、候補者との間で文書協定を締結できなかったことが団体内での意思決定に支障となり、また、選挙戦の最中に樫野選対から「神戸再生フォーラムの片思い」なるコメントが出される遠因にもなったこと。なお、文書協定が必要不可欠な推薦条件かどうかは、今後の議論の中で検討していくことが必要になっています。

２．投票率をアップさせる方針は掲げましたが、その具体化に欠けていたこと。

３．神戸再生フォーラムと共同する人びとの中に、平気で人を欺く人々がいるということに対する警戒心が足りなかったこと。

４．選挙戦の最終盤まで、候補者の一本化を追求しましたが、実現できなかったこと。

５．“第１回神戸市政フォーラム”　（２００７年１１月１８日）の開催にあたっては、１００を超す労働組合や市民団体に協賛・参加の呼びかけをしましたが、応答のない団体へのフォローが十分になしえなかったこと。

６．垂水区は「区の会」を、また東灘区はネットワーク型のグループを立ち上げましたが、９区の全区で「区の会」を立ち上げられなかったこと。

７．機関紙と会員拡大を独自に追求してこなかったこと。

８．会費徴収や募金の訴えなどについて、徹底できなかったこと。

２．神戸再生フォーラムの「要請書」と口頭での意見表明（９月２６日）

過去３回の市長選挙では、文書協定を交わしてきましたが、今回はこの文書協定を締結することをめぐって候補者と神戸再生フォーラム、また候補者とフォーラムの構成団体との間で、合意にあたっての大きな障害となりました。内容面では合意できていたにも拘らず、文書による協定を交わすことができなく、事態を前進させることができませんでした。

候補者とは９月上旬にいったん、文書協定の合意ができましたが、候補者周辺のスタッフ等の妨害があり、文書協定は諦めざるを得なくなり、文書協定に代わるものとして以下のように対応しました。

・・・

４．なぜ好機を生かすことができなかったのか（Ⅱ）

－克服できなかった二つの邪心－

１．候補者選考の経過と政党との共同

（１）１２年間、一貫して日本共産党・新社会党と共同を継続・追求

これまで市民団体「神戸再生フォーラム」・政治団体「神戸再生」と２政党は、どのような枠組みで、市長選挙をすすめてきたのでしょうか。過去３回の神戸市長選挙の枠組み・選挙母体などについては、以下の通りです。

■１９９７年１０月■

○候 補 者：大西　和雄（医師）

○選挙母体：たてなおそう・神戸 市民の会（団体＋３会派／日本共産党、新社会党、住民投票）※２００２年６月、解散.

代　　表⇒早川　和男（神戸大学名誉教授）ほか

事務局長⇒森岡　時男（兵庫労連事務局長）

■２００１年１０月■

○候 補 者：木村　史暁（元日本銀行神戸支店長）

○選挙母体：虹のつどい（団体＋３会派／日本共産党、新社会党、住民投票☆市民力）.

木村氏は、市民団体「神戸創生フォーラム」を結成．虹のつどいには、「神戸創生フォーラム」、たてなおそう・神戸 市民の会、その他の市民団体が参加.

※２００１年１２月、解散.

代　　表⇒三木谷良一（神戸大学名誉教授）ほか

事務局長⇒島田　　誠（ギャラリー島田）

■２００５年１０月■

○候 補 者：瀬戸　恵子（「ストップ！神戸空港」の会・事務局次長）

○選挙母体：神戸再生〔政治団体〕＋２会派／日本共産党、新社会党＋各団体が共同選対

※市民団体「神戸再生フォーラム」は２００４年４月、結成．現在に至る．代表は、村井　雅清ほか．事務局長は、高田　富三.

政治団体「神戸再生」は２００５年１月、結成．現在に至る.

代　　表⇒高田　富三（市民版参画条例研究会代表）

会　　計⇒出口　俊一（兵庫県震災復興研究センター事務局長）

（２）突如９月中旬、日本共産党が枠組み離脱⇒独自候補擁立表明

日本共産党、新社会党とは過去３回の市長選挙ではさまざまな困難を乗り越え共同してたたかい、前回の２００５年の選挙後も「次回こそ、勝利をめざそう」と引き続き、共同して取り組みをすすめてきました。２政党との懇談の経過と２００９年９月の第１０回と第１１回の２回の懇談会での遣り取りを記しておきます。

【２００６年】

○２月２７日（月）午後、兵庫県私学会館．２政党との第１１回協議にて、２００５年選挙の総括その他の意見交換.

○５月１２日（金）午後、神戸市勤労会館．２政党＋１会派（住民投票＆市民力）との意見交換（村岡事件を中心に）.

【２００８年】

○１月７日（月）夜、ケンプロダクション．２００９年選挙に向けての２政党との第１回懇談にて、情報・意見交換.

○８月６日（水）夜、神戸市勤労会館．第２回懇談にて、情報・意見交換.

【２００９年】

○２月１０日（火）夜、神戸市立婦人会館．第３回懇談にて、情報・意見交換（中央市民病院移転問題、候補者ほか）.

・２政党のみなさんからは、「候補者については、神戸再生フォーラムの方で選考してほしい。いまの時点では、個別の名前は聞かない方がいい」との意見表明がありました。

○６月１６日（火）昼、神戸市役所．第４回懇談にて、中間報告（「候補者の候補」ほか）.

○６月３０日（火）昼、神戸市役所．第５回懇談にて、前夜の報告（樫野孝人氏のこと）.

・この懇談会において初めて、樫野孝人氏のことを報告しました。また、樫野氏以外にもうお一人の方（ジャーナリスト）のことについても報告しました。

○７月１４日（火）昼、神戸市役所．第６回懇談にて、報告（樫野孝人氏のこと）.

・神戸再生フォーラム側から、樫野氏と直接会っていただきたい旨を要請しました。

○７月１６日（木）、新社会党（粟原、中村）、樫野孝人氏と懇談.

○７月１８日（土）夕方、日本共産党（森、松田、西下）、チサンホテル神戸．樫野孝人氏と懇談.

○７月２７日（月）昼、神戸市役所．第７回懇談にて、報告（樫野孝人氏のこと）.

・２政党とも「好印象をもった」との意見表明がなされました.

○８月１０日（月）昼、神戸市役所．第８回懇談にて、報告（樫野孝人氏のこと）.

○９月　１日（火）昼、神戸市役所．第９回懇談にて、報告（樫野孝人氏のこと）.

○９月　３日（木）の「神戸新聞」の報道（日本共産党が独自候補を検討中）に関連して.

○９月　７日（月）午前、兵庫県私学会館．第１０回懇談にて、協議（樫野孝人氏のこと）.

○９月１７日（木）午後、兵庫県私学会館．第１１回懇談にて、協議（日本共産党の独自候補問題ほか）.

≪２政党との【第１０回懇談会】の記録≫

◎日　時：２００９年9月７日（月）午前１０時～１２時

◎場　所：兵庫県私学会館２０９号

◎出席者：１２人※５０音順

新社会党：粟原富夫委員長代行、上野恵司副委員長、鍋島浩一書記長

日本共産党：岡　正信委員長、森　勇治副委員長、松田隆彦書記長、西下　勝常任委員

神戸再生フォーラム：中島　淳、黒田達雄、久保徇子、高田富三、出口俊一

１．日本共産党岡正信兵庫県委員長と神戸再生フォーラム（再生）の発言の概要

（１）今日、はじめてこのような場が持てた。

⇒（再生）再生側からは、いつもレジュメと資料を配り、昨年から１０回懇談してきた。１０回目にもかかわらず「はじめて」との発言には、再生側の指摘により「撤回する」（岡）との表明がなされました。

（２）２００５年市長選挙において、神戸再生・日本共産党・新社会党の枠組みでたたかったが、今回「神戸再生」は名称も「神戸は変わる。」に変更し、樫野氏を応援することを決めようとし、違う路線に行こうとしている。共産党とは別に独自の動きをしている。枠組みが変わり関係がなくなる。

⇒（再生）神戸再生フォーラム（市民団体）・神戸再生（政治団体）は、従来からも今も、共産党・新社会党とともに、神戸市長選挙をたたかい神戸を変えようということに、いささかも変わりはない。名称変更については、神戸再生が、樫野氏の政治活動に協力するため、一時的に変更するものである。本質は全く変わりはない。共産党が「神戸再生」は路線変更したから関係がなくなるというのは、いちゃもんをつけて離婚したいというのと同じだ。

⇒（岡）　神戸再生が、樫野氏を推薦することは、共産党と手を切ることだ。

⇒（再生）神戸再生が９月８日の総会で、樫野を推薦するなということか。

⇒（岡）　そういう意味もある。

⇒（再生）神戸再生の構成団体に共産党は入っていない。神戸再生は構成員の意向によって決める。筋違いではないか。

（３）従って共産党は９月３日、２００９年度の「神戸市長選挙の政策（骨子）・争点について」を発表した。

⇒（再生）「神戸再生」が変わったから、共産党が政策を発表したと言うが、それは違うのではないか。従来から選挙時には発表している。内容も、「神戸再生プログラム」（第１３次案）と極めて類似している。神戸再生フォーラムと日本共産党の政策の間には違いは極めて少ない。十分に一緒にやっていける。

（４）樫野氏の政策について日本共産党の不安な点は、次のようなことである。市民病院・空港・道州制・予算・非核「神戸」方式・教育・保育所・９条改憲・教育基本法・消費税・憲法・地方自治法。

⇒（再生）共産党自身が本人に確かめたのか。すべて伝聞。他人の言葉ではなく、直に確かめて評価して下さい。

⇒（岡）　樫野さんは民主党には挨拶に行った。自分は会っていない。

⇒（再生）（再生が段取りしないことを問題視する発言がなされたので）７月１８日に、森副委員長・松田書記長・西下常任委員が直接会って、パイプができている。疑問があれば、直に当たってくれれば、今日今になって問題ということはないと思う。

今日のまとめとして、神戸再生フォーラム・日本共産党・新社会党は、この枠組みを堅持するが、共産党が今日今現在、樫野氏の政策に疑問があるということを確認した。なお、神戸再生フォーラム側から、腐敗まみれだった旅田市長辞任の後の和歌山市長選挙で、日本共産党が、政策の一致しない候補を、健全な野党として「協力」し、当選させた実績を述べ、新社会党の共鳴を得ていた。

２．新社会党粟原委員長代行の発言

神戸再生フォーラムが、総会で樫野氏推薦を決めたら、それを踏まえて検討に入ります。

≪２政党との【第１１回懇談会】の記録≫

◎日　時：２００９年9月１７日（木）午後５時～６時４０分

◎場　所：兵庫県私学会館２０２号

◎出席者：１４人※５０音順

新社会党：粟原富夫委員長代行、上野恵司副委員長、鍋島浩一書記長

日本共産党：岡　正信委員長、森　勇治副委員長、松田隆彦書記長、西下　勝常任委員

神戸再生フォーラム：村井雅清、高田富三、中島　淳、黒田達雄、久保徇子、藤原柄彦、出口俊一

１．３者の意見表明

■日本共産党：樫野孝人氏は推薦できない。話し合いの余地はない。樫野氏は、信用できない。①神戸空港、中央市民病院、②教育改革、③中学校給食、④敬老パス、⑤道州制などの政策に問題がある。神戸再生フォーラムの第１３次案とも矛盾する。現状で言えば、独自候補も準備する。これは宣言だ。枠組みについては持ち帰る。

■新社会党　：３者の枠組みを大切にしたい。この枠組みは守りたかった。

「神戸再生フォーラムの決定を踏まえて、対処する」方針に変わりはない。

■神戸再生フォーラム：

「話し合いの余地はない」と言うが、話し合いはしたのか。是非、樫野氏と直接話し合っていただきたい。

⇒「話し合う必要はない」と岡、松田両氏は繰り返した。

「独自候補」とは、神戸再生フォーラムの方で保留をしていただいている候補のことか？

⇒岡氏は、「それは、違う」と表明。

「独自候補」云々は、この４年間の経緯からしても信義に悖る。今頃になって「独自候補」擁立は、敵を利するだけで、分裂させることだ。これまで、共産党は西下勝神戸市会議員（最近まで市会議員団長）と話し合ってきたことは、一体何だったのか。今回の態度は不誠実だ。

⇒西下氏は、この問いには答えず、「神戸再生フォーラムは、『住民投票＆市民力』の井坂信彦議員に振り回されている。見通しが甘い。馬鹿にされているではないか」との見解を表明。

はじめに独自候補ありきで、政策に難癖をつけているだけだ。

「独自候補」を立てても、泡沫候補になるだけだ。

「独自候補」擁立は、神戸市政を少しでも良くすることにはならない。

今回の神戸市長選挙は、「勝つ」ことが目標なのか「大義名分」なのか。

⇒回答なし。

１９９７年当時の白石芳朗兵庫県委員長（故人）が、当時の神戸市民懇のメンバーに「みなさん方は、“ライトからレフトまで”と言うが、レフトの方が多く、できればもっとライトにウイングをのばしてはどうでしょうか・・・」と言われたことがある。参考になる賢明な意見だ。さらに、前回も述べたが、和歌山市長選挙の時の健全な野党としての「協力」も一考に値する。

樫野氏がダメなら、改めていまの枠組みで候補者を考えるということなら、理解でき

るが、これまでの３者の共同と枠組みを、自ら放棄することになるではないか。
⇒岡氏は返事に窮していましたが、最後まで「独自候補」見解を撤回せず。

２．最終確認
次回の「第１２回懇談会」の日程を確認しようとしたが、岡氏の「その必要はない」との表明を踏まえて、改めて３者の窓口担当を確認して終了した。

（３）この４年間の経過からみて、どうして“独自候補擁立”なのか
２政党からは２００９年２月１０日（火）夜の第３回懇談にて、「候補者については、神戸再生フォーラムの方で選考してほしい。いまの時点では、個別の名前は聞かない方がいい」との意見表明がなされ、その後も懇談を重ね樫野孝人氏のことを含めつぶさに報告してきました。７月には樫野氏と直接会談もしていただくように要請し、実際行われました。「独自候補擁立」どころか「候補者は、神戸再生フォーラムで選考を」との態度・姿勢でこの９月まで推移してきました。
この間の経過を見れば、一目瞭然ですが、「独自候補擁立」方針が３者の懇談の場で伝えられたのは、９月１７日（木）の第１１回懇談会の時です。１０月１１日（日）の告示日の３週間ほど前になった時点です。誰もが耳目を疑うのは当然ではないでしょうか。
日本共産党には、新社会党と神戸再生フォーラムとの枠組みを何としても消滅させたい理由があるとしか思えません。

（４）神戸再生フォーラムは、どのように候補者選考をすすめてきたのか
過去３回の選挙時（１９９７年、２００１年、２００５年）の候補者選考過程の教訓を踏まえ改めるべき点は改め、取り組みをすすめてきました。そして、以下の会議にて検討を重ね、２００８年５月以降、「候補者の候補」の方々にあたってきました。
１）「候補者選びの検討委員会」⇒「『候補者の候補』を考える会」の経過
【第１回候補者選びの検討委員会】２００７年６月１８日（月）
「第１回候補者選びの検討委員会」を広く呼びかけて開催しました。わいわいがやがや思いつきでもいい、何でもしゃべろう、責任は問わないということで、出てきた意見も紙には残さないこととしました。
↓
【第２回候補者選びの検討委員会】２００７年８月１日（水）
↓
【第１回「候補者の候補」を考える会】２００７年１２月４日（火）
↓　－中略－
【第２１回「候補者の候補」を考える会】２００９年７月２０日（月）

２）「候補者の候補」の意向打診・要請（２００８年～０９年）について
具体的に名前の挙がった６人の方々－弁護士（２人）、大学教授、建築家、ジャーナリスト、映画プロデューサー－に、２００８年５月２８日から０９年６月１９日まで意向打診と要請を重ねてきました。
０９年６月２２日までは、どなたからも受諾のご返事がいただけませんでしたが、６月２３日、

この内のお一人から「神戸再生のお役に立ちたい」とのご返事をいただきました。ただ、すでに樫野孝人氏との協議を開始していた時期でもありましたので、保留にさせていただきました。ご本人には事情を説明し、了解をいただきました。

樫野孝人氏には、０９年４月２７日に出会い、６月２９日から１７回の協議を重ね、情勢分析、ビジョン・政策や枠組みなどのことについて率直な意見交換を重ね、９月５日までと２２日の２回にわたって合意に至りました。またそのほか、医師、大学教授、政治家の５人の方々の名前も挙がりました。なお、「５日と２２日の２回の合意」とは、衆議院総選挙後の政党の力関係の変化が影響し、合意内容をより詰めた結果によるものです。

また、選挙後に「神戸再生フォーラムが独自候補を擁立できなかったことに尽きる」との意見が出されましたが、それは事実誤認です。

この２年間余の候補者選考の経過を振り返れば明らかなように、樫野氏を含め６人の方々に意向打診と要請を重ねた結果、２００９年６月に樫野氏にしぼって話し合いを開始し、２政党とも意見交換をしながら慎重に候補者の決定をしたのです。

２．候補者の姿勢、戦略・戦術、そして選対はどうであったのか

（１）候補者の姿勢はどうであったのか

－樫野孝人氏との懇談会の経過より－

■６月２９日（月）夜、第１回懇談会（参加者１０人）での話し合い■

※以下は、当日の樫野氏の弁（○）と３０日（火）夜の会議での懇談会参加者の感想・意見（◇）.

○政策⇒これまでの事業では、顧客、社員の満足度を基本にして取り組んできた。

市民目線を大事にして、政令指定都市唯一の助役上がりの市長を変えたい。

神戸を地方自治の一つのモデルにしたい。

これから２０年、地方自治に取り組みたい。もう企業には戻らない。

○資金⇒株を保有している。

○方法⇒階層・地域毎のミニ集会を開いている。９月に大集会をしたい。

「ＴＳＵＴＡＹＡ」、「ユニクロ」、「ローソン」、「楽天」の社長と友人。

「ＴＳＵＴＡＹＡ」の社長を後援会長に迎えたい。

◇政策についてはいまだ、明確なものはないようだ。

◇「５項目の質問」（後掲）をつめてほしい。

◇人柄はいい。「やる気」「人当たり」「人脈」「姿勢」「ルックス」等々、好人物だ。

◇いい人だ。線が細く、華奢な感じ。

◇何とも言えないが、やはり、プロデューサーという感じ。

◇幅広い人脈があるようだ。

◇映画監督の白羽弥仁さんが、ついているのは大きい。その白羽さんからは、「樫野さんは、『神戸再生フォーラムは、最適だ』と思っているのではないか」との連絡があった。

◆樫野孝人氏への「５項目の質問」（６月３０日発信）と「回答」（７月１日受信）◆

１．神戸をどんな町にしたいのでしょうか。また、どんな町であるべきでしょう。大借金を抱えながらもビルド＆スクラップを続け、一地方都市なのに大都市と肩を並べるべく背伸びをしている

ように見受けられるのですが・・・。

ひところの日本は大きいものが良いことだ！的なノリがすべてにありましたが、他とは違うキラリと光る存在感のある都市が求められていると思います。
イチローがそうでしたが、日本のリードオフマンのような都市になりたいですね。過去は海外物産に対して日本のゲートウェイでしたが、今後は２１世紀の生活スタイル・暮らしと文化を提案していける街づくりをしたいです。

２．今までなされてきた企業経営の経験が、市長としての都市経営にどのように生かされるとお考えでしょう。企業経営の経験は必ずや生かされると思いますが、都市経営は企業経営にない側面も必要ではないかと思います。その時の判断基準は何に重きを置くべきでしょうか。

企業経営で養った力は「情報収集力と組織活性化マネジメント、意思決定・判断力」だと思いますが、「会社は誰のもの？」という議論の中で、間違った方向にいく経営者は「株主だけのもの」と思って経営をしています。
ここに「社員のもの」「顧客のもの」という視点を入れている会社は本当に公器として進化しています。
行政においては「市民のもの」という視点をベースに、とはいえ、神戸だけの問題ではなく日本全体の視点も交えて意思決定できれば、必ず良い方向にいけると僕は思います。

３．阪神・淡路大震災の被害を受けた神戸市の事後の対応について、どのようにお考えでしょう。評価を下すとすれば、どのような評価を与えられますでしょうか。

日本で一番経験値があり、街の再生としてはかなり頑張っているのではないでしょうか？それを否定するつもりはありませんが、「欠けているものが、まだある」という認識です。
それが、「灯をともす」という作業だと思います。コンクリートから人とソフトへ、これが仕上げとして必要なのではないでしょうか？

※この「回答」には捉え方が複数生じていたので、再質問（７月１３日）をした結果、下記の補足がありました（７月２０日）。
主要には市民が、がんばった。ただ、神戸市も何もやらなかったわけではなく、がんばったのではないか、と思う。

４．日本国憲法に示されている地方自治の理念とか平和の理念について、どのようにお考えでしょうか。これまでの神戸市の行政は必ずしもその理念を守ってきているとは言い難い面があります。非核神戸方式も風前の灯火と苦慮しています。

難しい問題ですね。日本のスタンスとして平和への強いこだわり、そのための決め事は守り抜くべきだと思います。
ただ、地方と国の役割や、国全体の外交スタンスがブレているというか弱体化している？よう

に思いますのでいずれにしても政治がもっと強くならないと解決しない問題だと認識しています。

５．歴代市長に対する大政翼賛会的な議会、密月関係を続けている市職労への対応についてどうお考えでしょう。他の都市でも市長と議会の軋轢に苦労している事が多いものですが、策はありますでしょうか。

信念を持ってコトにあたります。必ず誰もが「正しきこと」はわかっているし、そこに賛同できる「進め方」も大事だと思います。

企業でも「多くの軋轢」をどう掻い潜るかは経営手腕でもあります（笑）。どうしても突破できそうも無ければマスコミや市民のネットの力を借りるしかないですね。

こんな感じでお答えになっているでしょうか？

■７月１２日（日）午後、第２回懇談会（５人）での神戸再生フォーラムの説明と樫野孝人氏の表明■

○フォーラムの作成した資料に基づき、阪神・淡路大震災以降の経緯を説明した〔略〕。

○神戸再生フォーラムのことについては、共感することが多い。ホームページは、拝見している。

○これまで、２５回のミニ集会（長田高校ＯＢ、リクルート関係者ほか）をしてきている。

○政策について

・自分のスタンス、考え方を明確にしたい。例えば、◇市民目線ですすめる◇情報公開を徹底する◇市民参加を基本にする◇フェアにしていきたい。これは、自分の信条◇説明責任を果たす、ことなど。

・「市民版参画条例研究会」（代表：高田富三）の方向－①市民が主役、②情報公開、③住民投票－は、賛成です。

・サラリーマン対象より、福祉、子育て・教育などの課題で女性などに訴えていく積極的な提案をしたい。中央市民病院のことを話すが、あまり理解されていない。

・個別のことでは、◇敬老パスを戻したい◇学童保育の待機児童の解消◇中学校の給食実施◇保健所の再配置など。どの程度の財源があればいいかを教えてほしい。

・神戸再生フォーラムの「再生プログラム」（第１３次案）の１９項目は呑める。要は、プライオリティ。

・個別具体的なことを決める（言い切る）のは、任期が４年～８年ということを考慮するとよくないのではないかと思う。

○神戸再生フォーラムの結成総会（２００４年４月３日）にて確認された「基本方針」は、賛成する。

○いま考えている今後のスケジュール

・７月末～８月上旬に出馬表明。最初は、ビジョン、思い、やり方。

・あとは、第二段階以降に。

・９月末に最終（総合）のマニフェスト発表。

○神戸のことはまだまだわからないので、これまでのことを知っておられるみなさんとこうやって話し合う場は、大変ありがたい。これからもお願いしたい。

○連絡・調整は、自分でしている。

○第３回懇談会を、「７月２０日（月）午前１０時～、被災地 NGO 協働センター会議室」にて開く。

■７月２０日（月）午前、第３回懇談会（５人）での樫野孝人氏の表明■

○こんだけ話しをさせていただいて、離れることはない。

○民主党の支援をもらうようにしたいと考えている。小沢一郎氏に直接会って、「自分は泡沫ではない・・」と、伝えたい。

○いま考えているスケジュール

・８月上旬（８月３日の夕刻予定）に出馬表明（第１次発表）。無所属。各方面と政策の協議中。第１号チラシを配布して説明。

・衆議院総選挙を経て、９月上旬に第２次発表。こんなところといっしょにやっていくという枠組みなど。

・９月末にマニフェストを発表（第３次発表）。大集会の開催を予定している。

■７月３０日（木）夜、第４回懇談会（６人）での話し合い■

○「読売」（７月２９日付夕刊）、「神戸」（７月３０日付朝刊一面）の記事をめぐっての意見交換。

○神戸市長選挙の考えられるコンセプトは、以下の通り。

①オール神戸⇒大同団結．②市民が主役の選挙、ほんまに市民が主役の選挙を．③政策・マニフェストの実現．④樫野への信任.

○いまこそ、風が吹いて、市民が勝つ時。自公民 vs 相乗り批判派市民の構図を明確にする必要がある。敵は、自公民と市役所一家。

○どのような形の選挙をするかは、「応用問題」。この「応用問題」をどのように解くかを双方、よく考えよう。

○第５回懇談会を、「８月３日（木）午前１０時～、被災地 NGO 協働センター会議室」にて開く。

■８月　３日（月）午前、第５回懇談会（７人）での話し合い■

○６月～７月：地元感覚、肌感覚で状況把握をしてきた。ミニ集会３２回（比較的、女性は少なかった）。

○８月　　：空中戦（ポスター１０００枚、樫野孝人第１号チラシのポストイン）、ネット戦の仕込みをしていく。８月４日（火）にウェブと携帯のＨＰを立ち上げる予定。
民主党の幹部にも会う。
８月１９日（水）か２０日（木）に出馬表明の予定。

○９月　　：９月上旬に記者会見の予定。地上戦を展開する。

○第６回懇談会を、「８月１３日（木）午前１０時～、三宮の新事務所か被災地 NGO 協働センター会議室」にて開く.

■樫野孝人氏と神戸再生フォーラムとは４月末に出会い、６月２９日（月）以来２０数回の懇談を重ね、信頼関係を構築してきましたが、９月上旬以降、「合意形成」とその合意の不履行の繰り返しという事態に陥り、困難が生じました。９月３日（木）以降の前進・後退の見解・姿勢は、以下の通りです。

○それまで民主党との関係は燻り続けていたが、「民主党への幻想は、なくなった。これでスッキリした」と表明（９月３日）。
○樫野氏との「合意書」の内容を確認するも、神戸市会議員の井坂信彦氏（住民投票☆市民力）らの妨害があり、真夜中に激変（９月６日～７日）。以来、繰り返し煮え湯を飲む羽目になった。
○民主党への推薦要請提出（９月７日）。
○「神戸再生フォーラムの言う全政党への推薦要請は、節操がない」（９月１３日）。
○神戸再生フォーラムの「要請書」提出と口頭での表明（９月２６日）。
○神戸再生フォーラム第９回臨時総会の傍聴と第３波市民決起集会での決意表明（９月２７日）。
○１０・２樫野孝人決起集会での決意表明（１０月２日）。
○首長連合への推薦要請（１０月３日）。
○選対の件で何度か軌道修正を試みたが、なぜか貫徹できなかった（１０月上旬）。
○自民党、公明党関係者との接触（１０月上旬）。
○みんなの党の応援（１０月選挙中２回）。
○１０・１９研究者・文化人での集いでの決意表明（１０月１９日）。

１０月１９日（月）以後、候補者の訴えは迫力を増し最終盤は急速に追い上げ、１０月２４日（土）午後２時過ぎ、「矢田、樫野、わからなくなってきた状況に・・・」との情報も飛び込んでくるような状況で２５日（日）の投票日を迎えました。２４日夜は、急ごしらえの法定ビラを撒けるだけまきましたが、選挙結果の７，８５２票の差を目の前にすると、２５日の投票箱の蓋が閉まる午後８時まで執念をもって取り組まなかったことが悔やまれます。

（２）樫野選挙対策本部主流の根強い反神戸再生フォーラム意識と排外主義の弊害

選挙中一番悩まされた問題は、樫野選対から神戸再生フォーラムが排除された問題です。フォーラムや新社会党への対応は、常軌を逸していました。このことについては、樫野選対の中心メンバーが選挙後、「勝つためにどうしても必要だった」と述べています。当初は民主党の推薦を得るために、それが不可能となってからは、自民党と公明党の支持者の一部の票をとるためには、フォーラムや新社会党などが支援していると見られたら困るからだそうです。

その発想の根本には、投票率のアップが見込めないという判断があったようです。市民運動であれ何であれ、同じ目的のためには多少の意見の違いがあっても一緒に行動するものではないでしょうか。こういう排除の論理がまかり通るところでは人材が集まるはずもなく、選対は終始混乱していました。これでは勝つことは大変難しいと言わざるを得ません。

このような樫野選対には、「稚拙で素人集団」「思いつきで行き当たりばったり」「勝つ気があるのか」「烏合の衆」等々の評価が、充満していました。また、樫野選対の中心メンバーであった神戸市会議員の井坂信彦（住民投票☆市民力）、同・高山晃一（同）、宮地　徹（選挙コンサルタント）の３氏等と高木伸明氏（樫野選対本部長）の対応、そして「志信会」などの動きは徹底的に明らかにする必要があります。

樫野選対の排他的雰囲気を感じつつも、神戸再生フォーラムのメンバーは最後まで「樫野勝利」に向けて、持ち味を生かし各種の取り組みをバックアップしました。

３．９月中旬、突然の枠組み離脱⇒独自候補を擁立した日本共産党兵庫県委員会

（1）６１，７６５人をミスリードした岡正信委員長の責任は重大

１０月２５日（日）の投開票日以降、事務局に寄せられた意見は、次の通りです。日本共産党兵庫県委員会は、これらの意見を真摯に受け止めて説明・謝罪をすべきではないでしょうか。

○独自の公認候補を出すのなら、４年前から表明すべきだ。
○９月上旬の兵庫県委員会の岡正信委員長の態度は、神戸再生フォーラムへの組織介入ではないか。
○神戸再生フォーラムの文書に対しての兵庫県委員会の受け取り拒否は、恥ずかしい。
○言論での遣り取りを否定する反民主主義的態度ではないのか。
○７，８５２票の差をどう考えるのか。
○心の痛みとか痛痒は感じないのか。
○選挙中、松田隆彦氏と「赤旗」は、樫野批判に終始した。
○敵を利するとはこういうことだ。
○敵を見誤っている。
○“戦犯”に値する。
○誤りを正すことに憚ることなかれ。
○自らの組織防衛のみに走った。
○いや、組織防衛にもなっていない。支持者の７４％が、松田氏に投票。１５％は樫野氏に。
○幹部の自己保身ではないか。「神戸を変えたい」と願う市民の期待を裏切った。罪なことをする。
○“右”に劣らず、邪悪な心をもっている幹部がいるようだ。
○日本共産党の枠組み離脱⇒公認候補の擁立により、犠牲者が多発したことを幹部はどのように受け止めているのか。
○分裂とか亀裂とかを生じさせる方針を押し付けた岡正信委員長は、責任をとることが必要だ。

日本共産党の独自候補擁立をなぜ許してしまったのかという点です。組織の内部事情はよくわかりません。しかし、この間の神戸再生フォーラムとの遣り取りから明らかなのは、阪神・淡路大震災後必死でつくってきた神戸市民の共通認識－それは一言でいえば、大事なことはみんなで決める市政に変えるということ－よりも組織の事情を優先したという事実です。

もともとその程度の組織だという人もいれば、本来は違うので信じられないという人もいます。何れにせよ、大震災後の市民派のコンセンサスが薄れてきていた結果と言えます。一方で、４年前は小泉自民党の大勝に象徴される「新自由主義の嵐」が吹き荒れ、神戸市長選挙でも市民派が真っ二つに割れました。しかし今回は、新自由主義のおかしさに世間が気づき、新自由主義反対の市民派と樫野選対の中心に居座った新自由主義に肯定的な人たちとの共同の条件は拡大していました。だからこそいっしょに樫野勝利のためにたたかえたのですが、そういう有利な状況を顧みずに組織防衛に走り、６１，７６５人をミスリードした政党が、今回の市長選挙をどのように総括をするのか、しっかりと見届けていかなければなりません。

一方、民主党が、先の衆議院総選挙の「圧勝」を根拠に来年の参議院選挙を展望して地方議員と地方組織を拡大、強化する方針で矢田氏を単独推薦したのと同様に、日本共産党もまた、来年の参院選での「躍進」を必須課題としているために公認候補を擁立したと言えます。民主党と日本共産

党に共通しているのは、党利・党略にのみ走り、神戸市民が抱える困難を解決するためにたたかわなかったことです。

（２）独自候補擁立は止むを得なかったのか。また、神戸再生フォーラムが暴走したのか

「神戸再生フォーラムが樫野氏を推すことになったため、日本共産党は、止むを得ず独自の候補者を出さざるを得なくなった」「神戸再生フォーラムの一部グループが、暴走した」などという宣伝が実しやかになされています。この点については、改めて事実経過を記録しておかなければなりません。

樫野氏との話し合いを避け、独自候補擁立に

９月１７日（木）の２政党との第１１回懇談会で日本共産党は、「①樫野は駄目だ」「②だから独自候補を準備（日本共産党＋新社会党＋神戸再生フォーラムの枠組みから離脱）する」と宣言しました。

この宣言で明らかなことは、日本共産党はこの時点まで、神戸市長選挙については、２００４年４月の神戸再生フォーラムの結成間もなくから２００５年の瀬戸恵子さんを推し立てた選挙を経て２００９年９月まで、日本共産党＋新社会党＋神戸再生フォーラムの枠組みを認め参加していたということです。２００５年の市長選挙後、枠組みは消滅することなく、存在していたということです。日本共産党と新社会党と神戸再生フォーラムの３団体は、神戸市長選挙を共同してたたかうという仲間であったのです。もし、日本共産党が枠組みに参加していないなら、「①樫野は駄目だ」「②だから独自候補を準備する」のは一理あります。

枠組みがあり、その枠組みの中で追求しようとするならば、「①樫野は駄目だ」という原因が、「②だから独自候補の準備」という結果になりません、論理の飛躍があります。

神戸再生フォーラムは、「①であるならば、候補予定者は神戸再生フォーラムが留保している方がいることを日本共産党も知っているが、その方か」というと、「それは、違う」との返事、「それでは枠組みを守るため、神戸再生フォーラムの既存のメンバーか」と聞くと、「それでもない」との返事でした。

「①樫野は駄目だ」というのが結論とすればそれの論理的帰結は、「③だから、３者でもう一度候補者を探そう」ではないのか。そうでなく、「②だから独自候補の準備」というのは、「日本共産党は枠組みを守る努力を放棄・離脱である」「分裂行動ではないか」と問い直すと、答えはありませんでした。

「①樫野は駄目だ」とする主な理由として、①神戸空港、②中央市民病院、③教育改革、④中学校給食、⑤敬老パス、⑥道州制などを挙げました。これらの案件に対する説明を求め、それに反論したところ、岡委員長から「見解の相違」ということで、議論することすら拒まれました。

実際、神戸再生フォーラムの政策と大きく食い違ったのは、③の教育改革だけで、⑥の道州制について神戸再生フォーラムは、見解を纏めていません。その他は、これをもって枠組みを離脱する理由にはならないものでした。話し合いを拒まれてしまったのです。

日本共産党は、樫野氏の政策についての神戸再生フォーラムとの見解の相違内容を明らかにすることを放棄するとともに、枠組みの中での候補者擁立の提案もせずに離反し、９月２４日（木）、兵庫県委員会書記長の松田隆彦氏を候補者とすることを発表しました。兵庫県委員会の幹部が樫野氏との直接のパイプを持ちながら、一度も、政策について話し合う、あるいは、問い質すこともあり

ませんでした。マスコミの報道や自らの党支持者からの情報に頼るだけでした。

「神戸再生フォーラム」は暴走したのか

「神戸再生フォーラムの暴走」は、白黒逆を言う類です。２政党と連絡を蜜にして取り組んできたことは、すでに明らかにしておりますが、改めて記録をしておかなければならないことがあります。

樫野氏を応援しようとする多くの現場の日本共産党員の中で、神戸再生フォーラムの方針と政党の板挟みになり、それでも神戸再生フォーラムの方針に賛同した多くの人たちがいます。

兵庫県委員会の幹部から「規約に反する」として、「樫野応援を止めよ」と攻められた党員、地域の共産党支部で、意見が違うと今までの仲間と亀裂が生じ、精神的な苦痛を負った党員が多数います。

また、日本共産党の拡大・躍進のためにがんばってきた各区の民商会員の多くは、樫野氏の政策のすべてが正しいとは思えないが、「神戸を変えることができる」「勝つ選挙がしたい」と、民商として組織決定はまだの段階でしたが、各人が樫野氏の応援を決めたあとに、兵庫県委員会から突然、独自候補擁立の発表がなされました。その結果、各区の民商の日本共産党後援会の中には、自主投票にせざるを得なかったところもありました。現場でのこの混乱を生じさせたのは、一体誰だったのでしょうか。

神戸再生フォーラムは８月３日（月）と１８日（火）の２回、樫野孝人さんという人物・考え方を知っていただくため、そして、樫野さんに神戸の現実を知ってもらうため、神戸市内１０民商の幹部・事務局の方々を樫野さんと引き合わせました。樫野ファンはこの時にできました。

信頼の篤いまじめな日本共産党員をここまで苦しめることを兵庫県委員会の幹部は望んでいるのでしょうか。敵とたたかうのではなく、横から後ろからどつかれている党員の姿を想像すれば、今回のような誤った方針を押し付けることは回避できたのでなかったでしょうか。

神戸再生フォーラムは、日本共産党が決めた候補を落とすために、枠組みを壊し、独自候補を立て、民商の会員さんを困惑させたのではありません。その逆のことを日本共産党兵庫県委員会が実行したのです。

７月末に急旋回した日本共産党兵庫県委員会

７月１８日（土）に開いた市民決起スタート集会－第６回神戸市政フォーラム－、日本共産党と住民投票☆市民力の市会議員による連帯挨拶もありました。参加していた樫野氏と日本共産党兵庫県委員会副委員長・書記長・常任委員（神戸市会議員）が、集会終了後、会談の場を初めて持ちました。その会談出席者の後日の感想は、良好でした。これにより、日本共産党は樫野氏と直接のパイプをもつことができましたが、以後共産党から政策についての問い合わせも含め、９月１７日（木）まで話し合いは持たれませんでした。

７月１８日の集会に関して、７月２４日（金）付の「赤旗」（関西版）に報道記事が掲載されました。その記事がきっかけとなって、次のような出来事があったとのことです。

- 「赤旗」記事を見た兵庫労連幹部から日本共産党に対し、「共産党はいつから神戸再生フォーラムと神戸市長選挙を共同することを決めたのか」との詰問に近い問い合わせがあったこと。
- ８月７日（金）頃、２００９年兵庫県知事選挙で田中耕太郎氏を擁立した「憲法が輝く兵庫県政の会」（憲法県政の会）を構成している団体で、神戸市長選挙の取り組みをどうするかという

会議が開かれたこと。

７月３０日（木）、日本共産党兵庫県委員長の岡正信氏は、「神戸再生フォーラムに参加している兵商連（兵庫県商工団体連合会）と保険医協会（兵庫県保険医協会）が神戸再生フォーラムといっしょに先走ってもらうと、他の民主団体との兼ね合い上困る」との意見表明が神戸再生フォーラムに伝えられました。一般的には先行する団体は先行してもらい、遅れているところは必死に追いかけるのが常道ですが、不思議な表明でした。

８月５日（水）に岡氏は、樫野氏を推せるための条件として「①大企業を優先しない。②国とたたかう。③排除の論理をとらない」という３条件を提案していました。

７月末から８月上旬の経緯を振り返ると、日本共産党の指向は、この頃から神戸再生フォーラムとの共同から兵庫県知事選挙で田中耕太郎氏を擁立した「憲法県政の会」の枠組みに変えようという意思があったことが浮かび上がってきます。実際、選挙が終わって一月経った１１月末の時点では、そのような意思がより明確になってきています。

選挙後の仕切り直しの時点で枠組みを変えるということではなく、選挙の二月ほど前の候補者決定から選挙戦突入への重要な時期に、今回のような分裂行動に舵をきったことが取り返しのつかない甚大な被害をもたらしたと言えます。このことに対して日本共産党の岡正信兵庫県委員長は、反省を踏まえた説明をしなければなりません。

結局、市長選挙で兵商連と保険医協会はどちらの枠組みにも参加しませんでした。神戸再生フォーラムの構成団体の一つである「ストップ！神戸空港」の会は、選挙では日本共産党の枠組みに参加しました。

神戸を変えるには、日本共産党＋新社会党＋神戸再生フォーラムの枠組みを何十倍も大きくして、あらゆる神戸を変えたい市民と手を組まなければならないこと、つまり、「ライトからレフトまで」を文字通り実現しなければならないということが、今回再確認されました。

神戸市民全体から見れば、いまだ少数派の３団体や市民派と称する市会議員が、少なくとも同じ目的をもつならば、互いに嘘をつかないことが最低条件です。仲間を貶める隠しごとや陰謀を図ったり、大義のためと称して勝手に出て行ったり、勝つためと称して排除の論理で勝手に神戸再生フォーラムや新社会党を排除するようなことに対して、どう克服するかが重要です。

さらに、候補者が選挙のプロと称する「政治屋」の人びとに翻弄されるということがあったため、神戸再生フォーラムも多くのことを学びました。

（３）何が、候補者一本化を妨げたのか

９月２７日（日）の第９回臨時総会決定「候補者の一本化に向け、最後まで最大限の努力を行います」に基づき、翌２８日（月）から取り組みを開始しましたが、日本共産党兵庫県委員会幹部による説明・説得活動が、ことのほか障害になっていることが明らかになりましたので１０月２２日（木）、「お尋ね」（後掲資料２）を提出しました。

ところが、いったん受け取った同文書を２３日（金）午後、「『文書』は受け取れません。お返しします」との添え書きをつけて神戸再生フォーラムのポストに投函されました。

面談による話し合いや文書での遣り取りなど“言論”ということについての同県委員会の見識が疑われるような事態が生じました。枠組み離脱⇒独自候補擁立⇒立候補に至る過程での数々の歪曲やデマの延長線上で、言論そのものを否定するような態度は今後、厳しい批判に晒されるでしょう。

５．この４年間・１４００日余、どのように準備し、取り組んできたのか

「市長選挙に勝利して、神戸を変える」目標を実現させるべく、前回（２００５年）選挙後も取り組みを継続し、日常活動の推進を図ってきました。この４年間・１４００日余、以前にも増して多面的でかつ分厚い取り組みを展開してきました。項目的に整理しておきます。

１．４年間・１４００日余の取り組みの概要

（１）構造汚職追及（２００６年４月～）・神戸市政の批判的分析（２００６年４月～）・神戸空港開港への抗議の実施（２００６年２月～）．合計２１回（３年６か月）の集会を開催．

①シンポジウム・市民集会の開催（０６／４〔２回〕、０６／９、０６／１０、０７／４、０９／９〔２回〕、０９／１０）　⇒８回

②神戸市政フォーラムの開催（０７／１１、０８／４、０８／１１、０８／１２、０９／３、０９／４〔２回〕、０９／７）　⇒８回

③神戸空港開港抗議シンポジウム・集会の開催（０６／２〔２日間〕、０７／２、０８／２、０９／２）　⇒５回

（２）矢田立郎市政の姿勢を問う各種の「請願書」「公開質問状」の提出と交渉．また、神戸市会への「陳情書」提出と傍聴・口頭陳述の実施（２００６年５月～）．

（３）神戸市立中央市民病院移転問題の学習・宣伝、署名活動やアピール運動の展開．また、宣伝の一環として、寸劇“おくりにん”の上演．

（４）「神戸市会議員を選ぶ１０のポイント」アンケートの実施（２００７年２月）．

「２００６年４月に発覚した『構造汚職』は、市民が市政のあり方をチェックする絶好の機会であったが、市民を代表しているはずの神戸市会はその機能を果たせなかった。自民・公明・民主の与党が疑惑にふたをしたまま、多数を嵩に『構造汚職』追及を封じ込めたからである。そして、市会・政治倫理確立委員会は、地方自治法第１００条に基づく調査権限があったにもかかわらず、一度も発動することはなかった。

２００７年の市会議員選挙は、このような神戸市会でいいのかどうかを市民が検証する選挙である。すなわち、矢田市政を守る与党議員を選ぶのか、それとも神戸市を再生する議員を選ぶのかが問われる選挙である。それは、２００９年秋の市長選挙に向けてきわめて重要な情勢をつくりだすものとなるのである」との認識で、アンケートを実施しました。

（５）政策「神戸再生プログラム」（第１３次まで）の策定（２００７年７月～０９年８月）．

２００９年１０月の市長選挙勝利に向け２００７年７月以来、政策討論集会（２回）や神戸市政フォーラム（８回）－その内分野別の福祉フォーラム（３回）・文化フォーラム（１回）－を開催し、政策「神戸再生プログラム」の策定のための協議を重ね－０７／７／２４、８／３１、９／３、１０／２、１０／１５、１１／１８、１２／３、０８／３／２４、１０／８、１２／１、０９／４／１９、７／１８、８／２５－第１３次案（１９課題１７０項目）をまとめました。

（６）機関紙「神戸再生」の発行とホームページ更新やブログの開設、Ｅメール等による宣伝・伝達の強化．

１）機関紙「神戸再生」「神戸は変わる。」（№.４～№.１６＋号外２回）の発行

【２００４年】

●№.１：神戸空港／●№.２：市民病院が消える！

【２００５年】

●№.３：０５年市長選挙

【２００６年】

●№.４：保育所民営化問題／●号外１：村岡親子／●号外２：村岡親子／●№.５：構造汚職追及／●№.６：御影工業高校跡地問題

【２００７年】

●№.７：第３セクター／●№.８：神戸空港開港１年検証／●№.９：中小企業／地元力

【２００８年】

●№.10：大震災１４年目を迎えて／●№.11：神戸市政は、いま／●№.11－2：神戸市政は、いま／●№.12：神戸港は、いま／●№.13：不都合な真実

【２００９年】

●№.14：市民病院が消える！（Ⅱ）／●№.15：市民病院が消える！（Ⅲ）／●№.16：神戸は変わる。

２）１７波に及ぶ街頭宣伝行動（２００６年５月～０９年１０月）の実施.

機関紙「神戸再生」「神戸は変わる。」の配布（１７回実施で、２０万部以上）と街頭宣伝－神戸市役所前～９区の区役所前＋１支所前～駅前（阪神、ＪＲ、神戸電鉄、三宮・元町商店街）～９区の各戸－を継続してきました。

３）ホームページの更新（２００７年１１月）やブログの再開設（２００９年７月）、Ｅメール送信（２００６年４月以降、多数）での伝達の追求.

（７）財政活動の停滞.

２００５年選挙後の繰越金、会費（１口・３０００円）、募金でこの４年間賄ってきましたが、現時点では支払いが滞り、極めて厳しい状況を迎えています。選挙募金は、引き続き訴え中です。

●預金口座：三井住友銀行六甲支店（普）4146333　神戸再生フォーラム

（８）事務局体制の確立と民主的運営の推進（２００５年１１月～２００９年１０月）.

２００６年４月、現在の事務所に移転し事務局体制を確立（事務局長、事務局次長、事務局員が交代で詰める）し、諸会議を定期的に開くなどして民主的運営をすすめてきました。

◆代表・事務局会議（５５回）◆事務局次長会議（２４回）◆候補者選びの検討委員会（２回）◆「候補者の候補」を考える会（２１回）◆機関紙「神戸再生」編集委員会（３５回）◆共同する政党との懇談会（１１回）。

２．“７・１８市民決起スタート集会”を皮切りにした３か月の方針と実践

（１）下記の会議・集会・総会などを画期にして、経過・情勢報告の確認と取り組み推進の意思統一を図りました。

■７・１４第７０回拡大代表・事務局会議（兵商連会館／１８人）■

●当面の方針

①樫野孝人氏を有力候補の一人として位置づける。また、８月３日（月）を目処に団体内の合意形成に取り組む。

②今後、樫野氏とは（ｉ）政策（ⅱ）選挙母体（ⅲ）政党との関係などをつめて協議する。

■７・１８市民決起スタート集会（あすてっぷＫＯＢＥ／６２人）■

●西下　勝（日本共産党）、林　英夫（住民投票☆市民力）両神戸市会議員が連帯の挨拶。

●方針“候補者決定までの当面の取り組みについて”

①政策「神戸再生プログラム」（第１２次案）の討議。

②“中央市民病院移転の一時凍結・見直し”署名と４氏のアピールの賛同を拡大。

③第１６波「神戸市の再生」をめざす街頭宣伝行動－機関紙「神戸再生」（№１５）－（７月２７日(月)～)。

④団体・地域毎、また９区の各区毎に“懇談会・集会”を開催。神戸市政改革の課題を討議。

⑤募金活動に取り組む。目標：最低１０００万円。

⑥候補者決定を急ぐ。「神戸再生フォーラム第８回臨時総会」（８月上旬予定）にて決定。

≪参　考≫

◆「神戸再生フォーラム結成総会」（２００４年４月３日）にて確認された「基本方針」◆

（１）基本方針

①「ライトからレフトまで」の幅広い枠組みをつくる．英知を集め市民の目線に立った政策〔再生プログラム〕をまとめる。また、選挙工学に習熟するように取り組む。門戸を広くし、排除の姿勢をとらない。

②参会者は、「小異・中異」を留保し、「大同」につくことを目標とし、対等・平等に、同じテーブルについて協議・確認する。また、この会は、原則としてオープンとする。

③この会をどのようにすすめ発展させていくかは、参会者で協議・確認する。

④候補者は、今からさがし始める。

⑤資金集めに知恵を出し合う（１，０００万円目標）。

●各分野の報告　※テーマに沿って、１人１０分以内での報告。発言者は、１９人。

①西松マネーが矢田立郎市長後援会にも　⇒出口　俊一（事務局次長）

②神戸空港の土地は売れない　⇒高田　富三（事務局長）

③中央市民病院がなくなる　⇒武村　義人（兵庫県保険医協会副理事長）

④中小業者を大事にする市政へ　⇒田中　邦夫（兵庫県商工団体連合会事務局次長）

⑤市営住宅家賃値上げで、被災者から９億円を吸い上げる神戸市の非情　⇒河村宗治郎（兵庫県被災者連絡会会長）

⑥国民健康保険料の引き下げと後期高齢者医療制度の廃止を　⇒大杖　哲司（兵庫県社会保障推進協議会事務局長）

⑦国べったりの福祉から市民とともに作り出す福祉へ　⇒高橋　秀典（事務局次長）

⑧“緑”をなくす神戸の開発は止まらない　　⇒中島　秀男（アースデイひょうご）
　　－塩屋の開発計画に対する地元住民の取り組み－
⑨御影工業高校跡地は、いま　　⇒西島　　繁（御影の環境と景観を守る会）
⑩新長田駅南再開発が「デザイン都市・神戸」のモデルと言えるのか.
　　⇒黒田　達雄（一級建築士）

●感　想・意　見

◎とても有意義なものだったと思います。一市民として、一職員として色々と考えさせられました。最後の映画監督の白羽弥仁さんのお話なんか、特に・・・。林英夫市会議員の言葉に、自分の原点を感じています。震災後の大変な時に、空港建設をすすめると笹山市長が、わざわざビラまで作って公言した時の違和感、ほんとうに市民生活を無視していると思いました。

◎バラエティに富んで、非常に面白かった。全く通過道路である湾岸道路についても関心を。市民病院は、１０００億円。この道路は、国・県・市三分の一負担として、市も県も５０００億円以上の負担になり、放っておけない。市議・県議を変えなければならない。

◎大変よかったが、長田のおばちゃんとか市井の女性の発言が少ない。保育所で困っている人とか。本日、候補者の発表があるものと万難を排して参加しましたが、肩すかしです。若者・女性をよろしく。

◎「助役上がりの市長」というキャッチフレーズは、いかがなものか。特に「〇〇上がり」というのは適切とは思えない。

◎課題・問題とその資料が多くて、どれがどの課題と関連するのかが、わかりにくい。報告者の発言の中身を確認するのに追われた。みなさんの熱意には、敬服しました。

◎平和の象徴「平和のミミちゃん」は、華僑の林同春さんのご好意で華僑博物館の前に置かせてもらっていますが、市役所の前に置くべきです。

◎有料のゴミ袋を撤廃し、いつでも捨てられるゴミ捨てトランクを作って、缶・ビン・ペットボトルは、企業の責任で回収を。

◎神鋼石炭火力発電所撤廃の環境対策を。太陽光発電、風力発電等にも助成を。

◎市営地下鉄、市バスは、高齢者無料復活を。オーストラリア等は「全員無料」の都市が、多くあります。人びとの交流をスムースにし、まちが活性化するためです。現在は、人の流れがストップしています。

◎女性センターの充実を。このあすてっぷＫＯＢＥにありますが、あってないに等しい。

◎神戸市の女性幹部の顔が見えない。

●集会で表明されたスローガン

◎さらば、助役市長　神戸は変わる！

◎神戸も政権交代

◎神戸から政権交代

■８・３第７１回拡大代表・事務局会議（兵商連会館／２０人）■

●状況報告

〇兵商連：機関会議は、今週も来週も開く。本日午後、樫野孝人、高田富三両氏を交えて兵庫、長田などの現場を歩いた。磯谷吉夫会長も参加した。両者とも好印象をもった。

〇兵庫県保険医協会：機関会議は月１回開催。７月２５日（土）に樫野氏と懇談した。田中孝

明神戸支部長は「樫野氏とお友だちになりたい・・・」と。政策面で課題を残した。「中央市民病院移転問題」の態度が明確ではなかった。樫野氏は「神戸市当局からもヒアリングをしたい」。正副理事長会議では、「人物は大丈夫か・・・」との意見あり。機関会議は、８月２７日（木）。

○「ストップ！神戸空港」の会：７月１６日（木）に会議（代表、事務局、運営委員）を開いた。「今度は、ほんとうに勝てるのではないか」。樫野氏が、神戸再生フォーラムの政策に同意しているのはわかるが、「消費税」や「非核『神戸方式』」のことが不明。いまの状況では、判断しにくい。勝利したら少数与党。政策的資質が必要だが、不安だ。態度は保留。（会議の最後の方で）樫野氏との協議をすすめてもらって結構。

○神戸市職員の会：８月２７日（木）夜に樫野氏に来ていただき、懇談することになった。

●まとめと当面の方針

①候補者決定の予定であったが、経過報告と意見交換に止め、引き続き協議することにした。

②８月１１日（火）時点では、いまだ決定に至っていない団体が予想されるので、８月上旬開催予定の「第８回臨時総会」を８月３０日（日）の衆議院総選挙後の「９月８日（火）午後６時３０分～７時３０分、神戸市産業振興センター９０１」に日程変更する。その臨時総会にて最終決定を行い、記者発表をする。

③今後の事態に機敏に対応していくため、「村井雅清（代表）・高田富三（事務局長）・出口俊一（事務局次長）」の３人に判断の権限を委任する。その場合でも、リコーベのＭＬにて極力報告するとともに、直近の「拡大代表・事務局会議」に報告し確認する。

■８・１１第７２回拡大代表・事務局会議（兵商連会館／１６人）■

●状況報告

○兵商連：８月１０日（月）、兵商連第２回常任理事会にて「神戸再生フォーラムは、樫野孝人氏を有力候補として、政策論議・調整が進められています。民商・兵商連は、こうした動きが、中小業者の切実な要求実現を託せる候補者づくりとして実現するよう、神戸再生フォーラムに結集して、努力します」との決定をしました。また、樫野氏を交えた２回目の現場訪問を８月１８日（火）午後に行います。

○兵庫県保険医協会：８月１２日（火）午後、樫野氏との２回目の懇談を行いました。非常に友好的な雰囲気の中で行い、成果を得ることができました。出席者は、樫野孝人、林田辰也（樫野氏の知人、在東京）、武村義人、角屋洋光、高田富三の５人。

兵庫県保険医協会より提示された「開業保険医・歯科医師の重点要求（案）」の説明とそれに対する質疑がなされ、樫野氏の同意を得られました。同案に対し、樫野氏より文章表現について提案したいとの申し入れがあり、角屋洋光・高田富三両名にてすり合わせることとしました。機関会議は、８月２２日（土）理事会、８月２７日（木）神戸支部幹事会。

○「ストップ！神戸空港」の会：近日中にストップの会の北岡浩事務局長が高田富三事務局長を交えて樫野氏と懇談した直後に臨時の会議を開いて、意思決定する予定。

○神戸市職員の会：８月２７日（木）午後６時３０分～、神戸市勤労会館３０６にて樫野氏に来ていただき、懇談会を開催。テーマは、“市長の仕事を考える”。

○西須磨主婦の会：８月１９日（水）以降に、西須磨にて車座集会を開く予定⇒９月８日（火）に変更。

●まとめと当面の方針

①候補者決定を持ち越したが、協議の末、すべての団体の機関決定が揃うまで待つことにし、決定は次回「９月５日（土）の第７３回拡大代表・事務局会議」に再度、持ち越した。

②８月中は、各地域・団体にて懇談会・集会を開催して、合意形成を図る。その際、「第１号チラシ」（７７００枚・８月１９日（水）に事務所に搬入）を活用する。

③樫野氏との日程調整などは、事務局が関知しないところで事態が進行することを避けるため、前回確認した通り窓口を「高田富三・出口俊一」両名に一本化する。

④樫野事務所（神戸市須磨区平田町）が近日中にオープンする予定であるが、樫野氏との意思疎通を密にするために９・８臨時総会での決定を前に高田富三事務局長を派遣する。

■９・５第７３回拡大代表・事務局会議（兵商連会館／１９人）■

●今回の神戸市長選挙の目標といくつかの留意点について

○目標は、大震災後４回目の選挙で「必ず勝利して、神戸を変える」であって、“善戦健闘”で終わらすことがないようにします。

○引き続き、「原則の堅持と柔軟な戦術的対応」方針で合意形成をしていきたいと考えています。

「３目標・５指針」〔注〕はもちろんですが、内容面での「原則」は、政策「神戸再生プログラム」（第１３次案）です。政策をないがしろにするどころか、政策を重視するからこそ、この２年間、政策「神戸再生プログラム」を１３次まで作り上げてきました。自主的・主体的な政策を確立しているからこそ、大胆な「柔軟な戦術的対応」が可能になっていると言えます。「柔軟な戦術的対応」とは、樫野氏との合意をするにあたって、好機を逃さず、「神戸を変える。」には何が最も重要で必要かを判断するかどうか、だと考えています。その点で、変化の流れを掴む“シングルイシュー”も踏まえる必要があります。

〔注〕３目標・５指針

〔３目標〕

１．知恵と力を集め、樫野孝人と市民の勝利で政策「神戸は変わる。」を実現します。得票目標は、別に協議します。

２．「神戸は変わる。」ため、ほんまに市民が主役の選挙に取り組み、「個人・団体・政党」の融合型“神戸モデル”を創り出します。

３．自公民相乗り vs「神戸は変わる。」市民の構図を明確にする宣伝に取り組みます。

〔５指針〕

１．政策「神戸は変わる。」を早急に策定します。その際、「樫野孝人第１号チラシ」と政策「神戸再生プログラム」（第１３次案）を参考にします。

２．「ライトからレフトまで」の幅広い枠組みをつくります。門戸を広くし、排除の姿勢をとりません。

３．「小異・中異」を留保し、「大同」＝「神戸は変わる。」につくことを基本とし、対等・平等に、同じテーブルについて協議・確認します。

４．資金目標を○○○○万円とし、応分の負担をします。負担額は、別に協議します。
※１０００万円台で検討します。

５．問題が発生した場合は、その都度、協議・確認し、解決します。

○政治団体名と機関紙名の「神戸再生」から「神戸は変わる。」への１か月程度の暫定的名称変

更は、「柔軟な戦術的対応」のひとつです。

○「神戸は変わる。」というキャッチフレーズを含め、樫野氏のメッセージとサインをしっかりと読み取り、掴むことが必要です。樫野氏は７月１２日（日）、第２回懇談会の席上で「神戸再生フォーラムの『再生プログラム』の１９項目は呑める。要は、プライオリティ」と表明しています。日本共産党・新社会党など政党との個別の懇談の場でも同様の趣旨の発言をしています。

○いま、寸刻を惜しんで一気呵成に合意形成と取り組みの推進を図らなければなりません。選挙が終わってから「もう少し時間があったらよかったのになあ・・・」と、過去３回の選挙後、共通して出てきた意見です。これまでの神戸市長選挙の教訓を生かしたいものです。

○緊急に会費を集め、募金活動を開始する必要があります。神戸市長選挙をたたかう基盤は極めて脆弱です。７月以来、支払が滞っています。たとえ方針や政策を決めても、いまの現状ではたたかえません。

●決定

○樫野孝人候補の推薦と『第８回臨時総会議案書』を出席者（１９人）全員一致で承認した。

■９・８第８回臨時総会＆第２波市民決起集会（神戸市産業振興センター／１００人）■

●以下は、第８回臨時総会への「経過報告の概要」（２００９年９月８日）です。

樫野孝人氏との協議について

１．昨日（７日）深夜まで合意を纏める中で、「合意書」の取り扱い、神戸再生・神戸再生フォーラムの選挙運動の中での位置づけと具体的役割、運動の形態（どのように樫野氏を引き立たせるか、認知させるか）、費用負担など、樫野氏のビジネス生活の中で得た常識と私たちの常識の差－これはどちらが正しいというものではありませんーや、思想・信条の違いのある人びとがはじめて集まって樫野氏を応援するということの進め方や考えの差を克服しなければならないのですが、具体的には、神戸再生・神戸再生フォーラムと異なるグループに対する態度・共同の仕方等－が浮き彫りになってきました。

２．枠組みについても、衆議院総選挙後の政治的力関係の変化が影響し、各政党の正式な態度が決まっていないことも考慮に入れなければならなくなりました。

３．昨日（７日）深夜まで、樫野孝人氏との政策・枠組みなどについて合意をめざして、１４回にわたる協議を重ねてきました。基本的な点においては、合意は図られてきましたが、今後発表するマニフェストについての協議の中で、再確認しておかなければならないことが生じ、本日までに詰めることができませんでした。神戸空港問題など。今後については、鋭意樫野孝人さんと協議を重ね、遅くとも２０日（日）ごろには、完全合意を得たいと思っています。９月１３日（日）午前、改めて協議することを確認しています。協議をすすめてきた担当者である出口俊一・高田富三の両名がその点を事前に十分に考慮し、本日までに合意を得ることができなかったことを深くお詫びいたします。

●樫野孝人氏と日本共産党の事情により、候補者決定を先延ばしにする。発言者は、１８人。

■９・２７第９回臨時総会＆第３波市民決起集会（神戸市産業振興センター／７０人）■

●９月中の２回の臨時総会では、侃侃諤諤の議論を展開して、合意を形成しました。

●参加者は、７０人、発言者は、１６人でした。６時３０分の開始から２時間の討議の結果、下記の通り決定しました。

１．樫野孝人氏の当選に全力をあげて取り組みます。

２．但し、会員を拘束するものではありません。

３．候補者の一本化に向け、最後まで最大限の努力を行います。

４．なお、今後の情勢に対応するため、１０月２５日までは“代表・事務局会議”に総会の権能を委譲します。

●総会参加者は、誰一人退出することなく、事務局提案は圧倒的多数の方の拍手にて承認され、午後８時３０分に終了しました。なお、８時３０分からのⅡ部は、集会に切り替えました。樫野氏は、総会開始時から終始参加。

●「『会員を拘束しない』決定しかできなかった神戸再生フォーラムは情けない」との意見が松田隆彦候補（日本共産党公認）を推した市民から選挙後、寄せられました。「情けない」と指摘を受けるような決定をせざるを得なくなった原因が、日本共産党の独自候補擁立にあったことに目を向けていただければ、もう少し違った意見になるのではないかと思われます。「会員を拘束しない」決定は、窮余の策であったことは、言うまでもありません。

●今回の候補者決定の過程は、過去３回の神戸市長選挙と比べても慎重さと公開の度合いにおいて大きく前進し、樫野孝人氏を選択した決定は、適切であったと言えます。

■１０・１８第４波市民決起集会（神戸市産業振興センター／４４人）■

●９・２７第９回臨時総会決定の後、樫野選挙対策本部の排外主義的対応により選挙の具体的な取り組み時に大きな支障を来たしましたが、代表・事務局会議での繰り返しの議論を経て、次の基本方針を堅持して最後まで取り組みました。

１．いかなる状況になっても「神戸は変わる。」の樫野孝人で１０月２５日、神戸市民革命を実現します。

２．街頭では中学生までが「かしのさーん・・・」と寄ってきています。次第に“かしの風”が吹き始めています。台風はお断りですが、“かしの風”を勢いづけて投票率をアップさせます。

３．ギリギリまで、候補者一本化の努力を続けます。

●また、選挙戦中盤の１０月１８日（日）夜、第４波市民決起集会を開いて最後まで取り組む意思統一をしました。発言者は、文書メッセージ１人を含め１３人。

■１０・１９勝手に樫野さんを応援する研究者・文化人の集い（兵庫県私学会館／３６人）■

●発言者は、１４人。

●集いの呼びかけ人のコメントから：

急な呼びかけにもかかわらず呼びかけた研究者・文化人の半数近くが集まりました。樫野さんが登場されてからは神戸再生フォーラムの中心メンバーや新社会党の方による熱い思いの吐露がありましたが、それまで多くの参加者からは、率直な期待や意見が述べられていました。

全体として、参加者の多くが樫野さんの生の声や決意を聞き、満足したようです。懇親会にも多数の方が参加しました。

「『樫野さんは、市民切り捨ての新自由主義者だ』との情報が広く流布されているが、実際に

ご本人の意見を聞くと全然違うやないか」「共産党が独自候補を出したのは何か怪しい」、そして「樫野さんを是非当選させ神戸市政を変えたい」などの意見が席上出され、侃侃諤諤の議論となりました。あと５日で雰囲気を大きく改善して、投票率の向上も図り、必ず当選を勝ち取りたいと決意を新たにしました。

（２）具体的な取り組み

≪宣伝物の一覧≫

・樫野第１号　⇒５０万枚ポストイン〔業者〕
・「繋ぎチラシ」　⇒数千枚
・「神戸は変わる。」（第１６号）⇒２５万枚（５０万枚印刷）の街頭での配布と各戸配布
・マニフェスト　⇒１万２０００部
・マニフェスト・要約版　⇒５０万枚ポストイン〔業者〕
・候補者ビラ　⇒７万枚（証紙貼付／１０月１１日夜、完了）
・ハガキ　⇒３万５０００枚の宛名書き
・法定ビラ　⇒最終盤（１０月２４日）に７５００枚＋α

①機関紙「神戸は変わる。」（第１６号）の街頭での配布と各戸配布

○９月末から１０月１０日（土）まで機関紙「神戸は変わる。」（第１６号）の街頭での配布と各戸配布（東灘区、須磨区の全域、灘区、中央区、兵庫区、長田区、垂水区、北区の一部）に取り組みました。２５万枚には到達しませんでしたが、選挙が終了した後も含め、好評にて事務局に多くの意見・感想が寄せられました。

○１０月９日（金）神戸市役所前、１０日（土）ＪＲ元町駅東口・西口前にて街頭宣伝に取り組みました。

②選挙はがき（３万５０００枚）の宛名書きと候補者ビラの配布（７万枚の証紙貼付を含む）

〔選挙はがき〕

○１万枚の宛名書きをしました。

〔候補者ビラ〕

○７万枚の証紙貼付を担当しました。

③掲示板へのポスター貼付

○東灘区の全部と中央区・兵庫区の一部を担当しました。

④宣伝活動

○街頭での樫野孝人候補の応援に取り組みました。

○神戸再生フォーラム発の「選挙行程案内」（Ｅメール）を連日、数種類のメーリングリストに発信しました。また、ファクスによる各種案内も実施しました。

⑤支持拡大

○電話・ファクス・Ｅメールなどで、出会った友人・知人に支持を訴えました。選挙はがきや機関紙「神戸は変わる。」（第１６号）などを活用しました。

⑥開票立会人

○須磨区、垂水区、北区の３区のみ開票立会人がチェックすることができました。樫野選対の初歩的ミス（届出を怠った）により、他の区は立会人のチェックができませんでした。

⑦マスコミへの対応

○積極的な情報公開を基本に、新聞・テレビ・ラジオの各報道記者には、包み隠さず発表してきました。

６．教訓・課題・方向

１.教訓

１．人格的に優れた候補者であるならば、短期間であっても、神戸市民には見抜く力があるということ。
⇒神戸市民の樫野氏に対する評価。

２．首長選挙では、個々の政策も重要であるが、「候補者が市民の方を向いているのか」「市民主役の神戸市政かどうか」という方向性がもっと大事であるということ。
⇒４０年ぶりの公認候補を立てた日本共産党にとって、「大同」とは何だったのか。

３．どんなによい候補者であっても、それを取り巻くブレーンは、候補者に無駄な精神的負担をかけさせてはいけないこと。
⇒選挙に入るまでに、毎晩就眠が午前２～４時、５kg も痩せた候補者残酷物語。

４．樫野氏の「マニフェスト」に関して言えば、ブレーンは、神戸の現実を正確に把握し、それを候補者に正しく伝え、その元で「おもいつきでない」政策を立案すること。
⇒既存の神戸映画祭についての認識の度合いはどうであったのか。

５．ブレーン及びスタッフは、政治活動のイロハや公職選挙法の内容を熟知しておくことはもちろんのこと、選挙実務の最低限の知識を身につけておくこと。そうすれば、「選挙コンサルタント」なる人たちの誤った情報に左右されることはない。
⇒枚挙にいとまがない事例が発生。

６．選挙は、基本的に足し算であること。
⇒排除の論理で得たものと失ったもの・損なったものは何か。

「もしも」という言葉には慎重さが必要ですが、権謀術数をめぐらさず、 樫野孝人氏の人格と方向性だけを大事にし、それを素直に表現するだけで、もっと市民の支持が得られ、勝利できたのではと思われてなりません。

２.課題・方向

１．代表・事務局会議では１０月下旬から１１月にかけて３回の総括討議を行いました。その上で、１２月１日（火）午後６時３０分～、神戸市産業振興センター９０１にて第１７回神戸市長選挙戦総括討論集会－第７回神戸市政フォーラム－を開催し、市民的に、オープンに反省と展望を語り合い、次回に向けてのスタートとします。

２．文書協定は、必要不可欠な推薦条件かどうかを検討します。選挙後、総括討議の中で２人の方から次のような少々角度の違う意見が寄せられています。
「今回の選挙で私も変化したところがあります。政党や団体が政策協定を結んで行う従来型の選挙運動への疑問です。神戸再生の中にも政策協定を重視する方がいます。しかし、そもそも選挙で

当選すれば、支持者の意向よりも市民全体の利益を考えて行動するのが民主的な市長のはずです。もし当選後の市長の行動を縛る担保として政策協定が存在するならば、その団体は、圧力団体と呼ばれるでしょう。私が現体制を最も嫌悪する理由はそこにあります。６００団体の支持を誇ったところで民意の尊重とは言えないからです。私たちの選挙運動も、現体制からはじかれた圧力団体のネットワークを作るのではなく、市民全体の意思を生かす政策（マニュフェスト）をともにつくる選挙にならなければならないと思います。そのためには団体の加盟を排除するものではありませんが、個人が主体となった選挙運動母体づくりが不可欠です」。

「団体は文書協定によらなければその構成員に伝える『証し』がなく、団体間の連携という局面で何らかの文書協定が必要です。一方、候補者と共同して『マニフェスト』をつくる作業ができればベストですが、団体が多くなればそれは現実的に不可能とも言えます。支持・支援団体を隠さなければならないようなことは改め、『賛同者』『協力団体』という風に一覧表でもいいから公開できるものが必要です」。

今後、選挙のあり方を根本的に問い直す問題として議論をし、可能な条件のもとでの文書協定交換を追求しながら、文書協定を必要不可欠な推薦条件にすることは見直し再検討することが必要となっているのではないでしょうか。

文書協定に代わるものとしては、政策（マニフェスト）などが挙げられます。今回の選挙では、これに加えて機関紙「神戸は変わる。」（第１６号）などがあります。

なお、前回の選挙では、瀬戸恵子氏とは政策＆組織協定を交わしたが、選挙終了後２年後に、日本共産党の比例代表候補になりました。文書協定は、その後の選挙にて政党の公認候補になることを想定しておらず、規制していませんでしたが、文書協定絶対主義には落とし穴もあることを考慮に入れておかなければなりません。文書協定絶対の態度をとる日本共産党には、この点の説明を明確にすることが求められます。

３．２０１１年春の神戸市会議員選挙を視野に入れて、「目的」の具体化につき検討します。

４．神戸再生フォーラムの組織内の修復とともに、３者の枠組みの修復を図ります。

５．神戸再生フォーラムの存続を検討します。そのための財政基盤確立に知恵を集めます。４年後の展望を語る時、脆弱な財政基盤をどのように確立していくかということと一体的に議論をしていかなければ、“机上の空論”になってしまう危険性を孕んでいます。

６．『“神戸は変わる。”まで、震災復興は終わらないー第１７回神戸市長選挙の全記録ー』（仮題）を早々にまとめて、出版します。

以　上

【資料１】市民の意見

事務局に寄せられたメール・手紙、また、集会やブログ・メーリングリスト上での２０人の方の意見を時間順に引用し、紹介します。

●１０月２６日（月）午前０時３０分、Ｋ．Ｉ

土曜日（２４日）の夜は、ここまで樫野さんを応援してきた方々数名とお食事をしました。樫野事務所の方、神戸再生フォーラムの方などなど・・・これまで神戸市長選挙のために尽力されてきた人たちの生のお話をいっぱい聞きました。ブログの話題になって、結構私がこの前書いた市長選挙の記事、読んでくれてたんだって。うれしかったよ・・

お玉は今までどんな選挙のときでも、共産党は応援していたし、どちらかというと庇ってきた。東京都知事選挙の時は、それまでの経過を踏まえたうえで、左翼リベラルの「共産党出るなのバッシング」はおかしいと思っていたほうだし、共産党やその候補者に「降りてほしい」ならまずきちんと話し合いの場を持てばいいことで、それをしないで、ただ降りろっていうのはおかしいよねえ・・なんて思っていたの。でもね・・・今回は悪いけど、言わせてもらう。

前回の選挙の時、共産党員の候補者を市民団体が推す形で矢田に挑んだ・・・あのとき、もう一人の対立候補だった陣営が、今回の選挙では「一緒に闘おう」といってくれた。本気で神戸を変えたいから。もう、官僚上がりの市長をいい加減にやめさせたいから。神戸の市政に透明性を持たせたいから・・・。

今回の選挙で共産党の人が候補に上がる前。実はずっと共産党と樫野陣営は話し合いを持っていた。みんな樫野さんを当選させたかったから・・神戸を変えたかったから。なんとか共産党とも一緒に戦ってほしかった。だって、これまで一緒にやってきた仲間ジャン・・・。

でも、共産党が気に入らない候補者だったのは分かった。だったらせめて共産党から候補者を立てるのだけはやめて・・という必死のお願いを聞き入れることはなく・・・・・結局突然降ってわいた４０年ぶりの独自候補擁立・・・私は「あほか」と思った。

いま、樫野さんを応援しようとしている人の中には共産党員の方が大勢おられます。いつも共産党に票を入れているリベラルがたくさんいます。共産党が立候補を出せば票が割れるだけじゃない、共産党自身が今後の選挙で信頼と議席を失ってしまう。なんでそれがわからないんだろう？

・・・実際共産党の立候補表明直後、動揺したり、悩んだりした党員の方々がたくさんおられます。陰でこっそり樫野さんを応援していた党員の方も私は何人も知ってる・・・。

そんな状況の中、連日の赤旗報道は、本来批判すべき矢田市長ではなく、なぜか樫野批判のほうが記事の扱いが大きかった。何言い訳してるんだか？？？どこに向かって書いてるんだか？？お玉、最近赤旗取り出してたんですけど・・購読やめたろうか？？と思えるほどでした・・・。やめないけどね。いいことも書いてることは知ってる、お世話にもなってる。

土曜日、私は一緒にいた人たちに約束していました。

もしも、かしのさんが僅差で負けるようなことがあったら・・・兵庫県の共産党批判記事で暴れちゃうと・・・で、書いちゃった・・・。

題名は、神戸市長選挙の絶望。

・・・もしもかしのさんという選択が間違いであったならば、それはまたその時に審判すればいいだけのこと。矢田よりも新人の樫野批判をしてどうする？兵庫県の共産党のえらいさん・・・。

しっかしい・・・矢田市長、共産党にすごく感謝してるだろうね・・・。これでまた４年も神

戸は変われない・・・。

兵庫県の、神戸の日本共産党・・・いったい何がやりたいの？もちろん共産党の立候補だけが敗因ではない。本当にいけないのはここまできて、まだ立ち上がれない私たち神戸市民自身ですよね・・・。投票率３１．５１パーセント・・・。ああ・・・ひく～～い・・・。

かしのさんの当選は、投票率次第だといわれてました。あと数パーセントあれば・・・違った結果になった可能性が大きいのです・・・。でもこんなに低い投票率にもかかわらず、樫野さんはこんなに票をとれた。すごいです。かしのさん、これからの一生を政治に身を置きたいと言ってくださったそうで・・・。４年後も出てほしいなあ・・・。

おかげさまで、私の記事は神戸市長選挙で検索してきてくださる方が、ものすごく多いです。その方々に向けて書いたつもりです。

●１０月２６日（月）午前１時５２分、Ｓ．Ｙ

投票率３１％台と聞き、「ああ、あかんわ」と、あきらめていました。それが９時台ＮＨＫ“樫野氏やや優勢”報道に、期待が頂点に上り、１時間後の接戦の末とはいえ、矢田当確報道で、奈落の底に落とされて、声も出ません。

市長選と灘区市議補欠選の開票状況一覧表を比べ見て、市長選は共産党が候補者を出さない代わりに、市議補欠選は無所属の候補者を出さないという協定を結ぶことは十分可能だったはずなのに・・・。

そしたら、市長、補欠市議ともに民主党候補を蹴落とすことができて、神戸が衆院選後初の政令指定都市首長選だからという理由で異常なまでに支配・干渉してくる小沢民主政権に、大打撃を与えることもできたのに・・・。

結果論から何を言っても無駄かもしれないけど、開票直前まで、かなり矢田氏楽勝みたいに予想されていたのに、開いてみると一時“樫野氏やや優勢”報道があったということは選挙戦終盤に急速に追い上げたのではないかと思うのです。それは最後のビラの貢献も大きいと思います。読み返すほどに「かしのさんをこそ、市長に！」と思いました。

政党や市民団体が押したり引っ張ったりして出したのではなく、ご自分から「愛する神戸のために市長になりチェンジしたい」と出てくれた最良の候補者をわずか８０００足らずの差で落としてしまって、本当に残念です。

でも、最善を尽くしてくださった再生さん、市民力さん、ミナト神戸さん（５０音順）、本当にお疲れ様でした。若い人からご高齢の方まで一生懸命選挙活動されていて、頭が下がりました。

私は再生さんの集会には、１０・１８第４波決起集会だけしか参加できなかったのですが、そこで出会った知り合いの方から、「これまでＴさんも参加されていた」と伺ってとても嬉しく思いました。１０年前ぐらいの記憶に、「ＴさんとＤさんは和気藹々とした名コンビ」というのがあるものですから。

●１０月２６日（月）午前２時３９分、Ｎ．Ｓ（大阪府）

今日は決定的瞬間を撮ろうと思い、神戸に行きましたが残念ながら撮ることはできませんでした。ＪＲの最終で先程、帰ってきたとこです。約８０００票弱の差、僅差です。ほんとうに残念でした。樫野事務所には懐かしい人たちの顔が並んでいました。事務所の中心は当然、若い人たちでしたが。市長選になるとやはり、みなさん集まります。それほど神戸には思い入れが強いの

でしょう。神戸再生フォーラムが９月に２度の総会を開いて「樫野応援」を決めたことはよかったと思います。

古い資料を見ています。市長選の投票率は震災前の９３年が２０．４３％（共産党も含む９政党が現職に相乗り）、震災後の９７年が４５．０４％、実に倍以上です。そして、０１年３８．１４％、０５年３０．２３％。そして今回は３１．５１％。７割近い人が投票に行っていません。やはり、そこが問題なのでしょうか。

ちなみに市長選の最高の投票率は「保革対立」となった７３年の５９．０２％。過去最高で６割にも満たない投票率。神戸の「病巣」も根深いですが、震災を体験し、神戸空港にあれほど反対した経験もあります。３５万人の住民投票を求める署名を集めた実績がある神戸市民ですから、その火種はまだまだあると信じます。条件さえ整えば、いつでも火がつくと。

●１０月２６日（月）午前６時４３分、Ｍ．Ｍ

神戸の市長選挙のことは何もわかっていませんが、今まで読ませてもらっている気持ちとしては、かしのさんの側も、この結果をうけて同じく考えてほしいと思います。

私は教育関係者ですが、正直いってここで最初からみかけた教育の関係をみるかぎり私はかしのさんを支持できないと思いました。

選挙に勝つか負けるかだけでなく、どうしても、かしのさんに投票できないという気持ちがなぜ生まれのかも分析してほしいのです。これは共産党がいけないとかの問題ではなく私のような気持ちになる人間がなぜいるのかの分析です。

私は両者に票の出方、もうちょっとあったら勝てたのにという見方だけでなく、なぜ、どうしてもかしのにさんには投票できない人間がいるのかもわかってもらいたいと思います。

それぞれ人間にはゆずれない大切にしているものがあるんだということなんです。

神戸のことは何一つ具体的にはわかりませんが、教育関係においては私はゆずれないものがあり、最初の方の投稿の中にそれを思いました。

●１０月２６日（月）午前９時１分、Ｉ．Ｈ（京都府）

神戸市長選挙の結果がでました。

Ｋさんからはコメントもいただいて、選挙中はご返事を遠慮しました。しかし、結果はまったくひどいものです。共産党候補が矢田市政の継続に手を貸したと言われてもしかたのない結果です。

２５日の「赤旗」日刊紙で反論ができない形で樫野候補を攻撃した記事は「赤旗」に汚点を残しました。共産党は誰を敵としてたたかったのですか？樫野候補との不一致点があったとしても、一致を求める話し合いには背をそむけて攻撃ばかりする。それまで共同できる候補を一生懸命探し、市民のために矢田市政の転換を願って活動していた人たちはどんな気持ちだったことか。

民主党に支援を求めたからって、一般の候補者が共産党に支援を求めてくるなんて現実が今の世の中にあるんですか？いつから共産党はそんなえらそうに強くなったのですか。こちらから出むいて一致点を一つでも見つける努力もしないで独自候補を立てれば、それは機関は楽でしょう。しかし、それで国民の要求を実現したり、国民の利益を守れるのですか？

神戸再生フォーラムは最後まで候補一本化を兵庫県委員会に申し入れたそうですが、兵庫県委員会は受取拒否で対応。誠意も市民の声もあったものではありません。選挙戦が終わった今こそ、

事実経過を明らかにしてきちっと総括してください。善戦健闘でおしまいにする総括はいりません。一人ひとりの声に耳を傾けない組織はつぶれます。

ぜひ厳正な調査を行ない、今回の独自候補擁立問題を検証してあきらかにしてください。よろしくお願いします。

●１０月２６日（月）午前１０時２４分、Ｈ．Ｆ

かしのさんの選挙、本当に惜しかったです。私も妻も樫野さんに入れたのに・・・。東灘、中央区、須磨区ではかしのさんが勝っているのに！

市民が真剣に神戸市政に関心をもち、もう少し投票率が高ければ、勝てたような気がします。あと１歩でした。本当に、残念です。投票場に行く人がもう少しいれば、十分勝っていたでしょう。いろいろ、反省すべき点はあります。東灘はがんばりました。

●１０月２６日（月）午後２時１７分、Ｆ．Ｋ

本当に残念でした。デジタル放送を家で見ていた友人が、分刻みで情勢報告を入れてくれてたのですが、本当に残念！！！

神戸をいい街にしたいと心の底から思ってますが、何もしてなくてＤさんとＴさんはじめみなさんの熱さには本当に頭が下がります。

微力ですが何かお手伝いできることあればしますので、言ってくださいね。

●１０月２６日（月）午後３時２分、Ｓ．Ｋ（大阪府）

「樫野孝人さん、ほんとうにありがとう。」－その言葉にすべてが表われています。事務局長のＴ・Ｔさんの御苦労が少しだけわかりました。

どうなってるのですか？経過を聞きたいですが、力になれないのですべてが終わってからお会いしたいと思っていました。

「３つのチェンジ」－市民の「情熱仕掛人」は、ネットで見ていました。あと少し投票率が伸びれば、共産党が神戸再生のように大人なら・・・。

以下の教訓を、今度お会いする時、お聞かせ下さい。そして４年後必ず・・・。

「神戸市民を本当に幸せにしたい」というチームになっていない市役所。

そうしたくてもできない「見えない何か」に縛られている。

⇒市民は、総選挙も民主を選んだわけではない。

この呪縛をはずそうとした投票行動だったかもしれない。選対やビラなど訴えの司令塔がＴさんなら事態は一変していただろう。カギは、神戸空港のあり方の市民コンセンサスかも知れない。

●１０月２６日（月）午後７時６分、Ｍ．Ｍ

本当にご苦労様でした。それにしてももうひと息で逆転とは、予想以上の善戦でした。正直いうと、開票率９９．５％で８０００票差の時は、一瞬目を疑いました。選挙戦で奮闘された皆様はもちろんですが、神戸市民の慧眼に脱帽です。選挙前に、樫野さん本人に向かって「二重丸です」と叫んだのは間違いではなかったと、安堵しました。現職の矢田陣営の方がショックでしょう。

今後の課題としては、政党の支持を求めないことと、西区、北区対策に万全の手立てが必要で

はないでしょうか。

「これから２０年間、政治をやる」と本人が言い切っているのですから、４年後が楽しみです。いや４年を待たずに選挙になる可能性もあるように感じます。何しろ「２期が精いっぱい」と本人が言っているのですから、今回の結果を真摯に見つめると、４年間完投することに「？」が灯っても不思議ではないでしょうね。

失礼ながら、昨夜は「負けても祝賀気分でした」。お疲れ様でした。

●１０月２７日（火）午後１１時１分、Ｓ．Ｍ

「鉄は熱いうちに打て」という言葉がありますが、今回のことについては私は反対です。ともかく、一度冷ますことを提案します。

樫野さんが、予想以上に大健闘をしました。これは、驚きでした。「選対」問題もあるでしょう。でも「再生」が仕切っていたらどうだったか。選挙の時のこうした混乱は避けられませんよ。

私が２００１年に参謀をした時だって全く、私の思うようには行きませんでした。振り返れば悔やまれることばかりです。いろんなシュミレーションを冷静に、時をおいて欲しいと思います。

当事者の樫野さんだって、いますぐ総括せよ、説明せよと言われても困ると思います。なにより感情的にならないことが第一です。私たちが、こんな候補者を見つけられなかった以上、選対中心部門だって、いろいろ反省事項があるでしょう。そうしたことを踏まえて議論をして欲しいと思います。なんで、そんなに急ぐのか、私にはわかりません。

●１０月２８日（水）午後０時２０分、Ｏ．Ｍ

本日、樫野さんからお電話を頂きましたので、「ご苦労様でした。いまは、ゆっくり休息してください」。僕はすでに４年後の市長選では、初期段階から選挙に関わって樫野さんを応援すると、決めておりますので、よろしくと、お伝えしました。樫野さんは今回落選しても、次回また挑戦するとおっしゃっていたので。

で。それはそれとして、どのような活動であれ総括は、きちんとすべきであると考えます。ディブリーフィング（Debriefing）というスマートな方法がありますから、その線でいきましょう、よ。

とはいえ、いたいけな皆様は、きっとかっかと熱くなられておられるでしょうし、感情のぶつけ合いも、相互理解の助けになることも多いし、ここんとこはひとつ、「鉄」の加工方法に例えるなら、「焼き鈍し（なまし）」でいけばいい、と思う。

＊参考〔鉄の加工用語〕＊

焼入れ：鉄に含まれる炭素の割合が多いまま冷却すること。きわめて固くて強い組成になる。
昔は「水」に入れて冷やすことが多かったので、焼入れという用語になった。

焼き鈍し：熱した鉄を徐々に冷却すること。
焼入れと異なり、鉄がやわらかくなる。鉄の内部のストレス(応力)を除去してひずみを無くすためにも使われる。

焼き戻し：焼入れで室温程度に冷ました鉄を、改めて摂氏約２００度に温めなおし、その後ゆっくり室温に冷ますこと。粘りがでて強靭な鉄になります。

加えて言うなら、急いで冷やすこともなかろぉ、という感じ。確信犯的に、市会議員２名と選挙ゴロを、“戦犯”として血祭りに上げて、その他のみなさまは、仲直り、って、荒治療もあり、

ではないかと、言うと、またＳさんに怒られそう。

●１０月２８日（水）午後６時５５分、Ｍ．Ｅ

選挙では再生の皆さん、本当にお疲れ様でした。これまで、そして選挙前から選挙後までの再生の活動を見ていて、私は前にも増して再生が好きになりました。正直なところ、いまだに樫野氏に対しては再生の候補者であることと反矢田以外に市長として必死で応援する明確な理由が私には見つかりませんでしたが。すみません。再生の方々ほどの神戸市への思いというのが、何を読んでも演説聴いても伝わってきませんでした。再生の候補者なのでしっかり応援しようという気持ちとの板ばさみ状態が続いていました。再生の執行部の方々は全面的に信じています。これくらい信頼できる方々の集まりというのは他に知りません。

この間の新聞記事（樫野氏は、再生も新社会党も切った）をみたあと、Ｓさんが再生は一般にどう見られているんですか、と聞いてこられました。私は「多分、左よりと思い、樫野陣営も切ったということでしょう。しかし、再生ほど政党や宗教ほか、すべての偏見を持たず誰でも受け入れ、神戸市のことをこれほど真剣に考えている団体は他にないと断言できます」と答えました。Ｓさんも集会に参加されていたので納得されていました。あの日に来ていた友人も同じです。

私が今回、思ったのは「再生」自身がもっと存在感（市民権？）を持って欲しいということです。再生を偏って見る人がいることが残念でなりません。

再生の活動は全く素晴らしいものです。しかもＴさん、Ｄさん、Ｍさん、Ｋさん（他の方はあまり知らないので）、何でそこまで献身的に活動に打ち込めるんですか。人間として素晴らしい方々ばかりなんですか。尊敬できる方ばかりの集まりであり、その上、皆さんが非常に根強い信頼関係にあることがとても羨ましく思えます。

今は中途半端にしか活動できないと思うので無理だと思っていますが、いつか仲間に入れていただける日がくるといいのにというのが私の夢です。ずっと応援し続けます！

●１０月３１日（土）時刻は不明、Ｍ．Ｎ（東京都）

神戸市長選挙をめぐる問題。複雑な問題だ。

私、高校まで神戸で過ごしたこともあり、その後の政治生活でも神戸とかかわりがある。知人・友人もいろいろな立場に別れて争っていて、なかなかコメントしづらい。

この問題をめぐって、共産党の対応を批判するコメントがある。擁護するコメントもある。他のブログでも、いろいろな議論がされている。

ただ、おそらくだけど、左翼だったら共通しているのは、党派を超えて、矢田市政を転換したいということだったと思う。だからこそ、矢田市政を転換できなかった結果を前にして、相手への批判がきびしくなるという面もあるのだろうが、それにしても、矢田市政を倒したいという気持ちまでなかったわけではない。気持ちは一緒のはずだ。

それだったら、どうしたら協力が進むのか。どういう見解を、どうやってのべれば、それがみんなの気持ちを潤わせ、協力し合おうという気持ちになるのか。それを考えてコメントしてほしいな。

そのうち記事を書くつもりだけど、他党派との協力という問題を、基本文書（綱領など）で明確にしているのは、日本では共産党だけである。安保問題など原則的なことであわなくても、政

権共闘することがあり得るということを明確にしている。

地方政治においても、いろいろな経験がある。たとえば、高知県で橋本大二郎さんが最初に立候補したときの選挙。政策的な立場が異なる橋本さんを推薦するわけにもいかなかった。でも、県民の願いに応えて、自主投票に踏み切った。

そして、党の県委員長は、「自分は橋本さんに投票する」と記者会見で明確にのべた。その後、実際の県政運営のなかで、橋本さんとの協力関係が強まった。

共産党の綱領の立場からすれば、そういう柔軟な態度がとれるのである。共産党はそういうことができる理論をもっているはずなのだ。

そいう暖かい気持ちで、コメントを書けないかな。今回の神戸市長選挙の対応については、評価が分かれるだろうけれども、協力し合わなければならないという強い気持ちがあれば、今回がどういう立場であれ、心がつながるようなコメントが書けると思うんだけど。

協力が目的ではないというなら、それで構わない。とにかく共産党批判をしたいのだとか、逆に共産党擁護だけが目的なのだとか。それなら、勝手に議論してほしい。

議論する度に左翼が反目し、離反していくというのは、私はまっぴらである。そんなイヤなことを促進するブログになるなら、やめてしまいたいとまで思う。

●１１月４日（水）午後２時１４分、M．T

このたびの選挙結果、本当に残念でなりません。金権疑惑に答えられない、市民、中小業者、弱者を顧みない、市役所一家の現職をやめさせる絶好のチャンスでした。零細の〇〇業者としても、市民の良識にも期待し、微力ではありますが頑張りました…。しかし、結果を見ると我々の力不足だったと言わざるを得ません。〇〇業者の中での動きを作っていくことは今後の課題です。

とはいえ、開票結果の数字をみれば、市政転換を望む声を一本化できたら勝利は間違いなかったものです。一本化の妨害となったのは何か…。

神戸再生フォーラムの言われるように、広く市民レベルで明らかにされる必要があるでしょう。

何故、４回続いた枠組みが直前になって「壊された」のか…？

何故、共同候補に政策の「完全一致」が必要なのでしょうか…？

何故、経過の事実を偽ってまで「独自・公認候補」にこだわるのでしょうか…？

何故、共同を大切にする政党が、共同破壊ともいえる行動を執ったのか…？

こうしたことを市民的に明らかにして、４年後こそは勝たなければなりません。大義名分にこだわる選挙より、本当に大義ある選挙戦をたたかいたいものです。

●１１月４日（水）午後６時４５分、F．A

今回の市長選挙は、日本の政治を先取りしていたと思います。民主党は、国政と神戸市政においてその姿勢や政策が違うように見えます。でも、これが民主党の本質のように感じます。

「もう一つの日本社会」が神戸でできる直前までいったのに、日本共産党が、市民のニーズ実現を妨害した。広い意味では、犯罪的だと思います。日本共産党兵庫県委員会は、なぜ今回のような態度・決定をしたかの説明責任があります。言葉で説明する必要があります。

●１１月１１日（水）手紙、W．S

１０月３１日付のM．Nさんのブログを興味深く読ませていただきました。日本共産党の「綱

領」を読んでみようと思い立ち、ホームページにアクセスしました。「綱領」には結構いいことが書かれていました。該当するところはどこだろうと探したところ、それらしい箇所が見つかりました。綱領の「四、民主主義革命と民主連合政府」の中に次のような件があります。参考までに引用しておきます。

（一二）現在、日本社会が必要とする民主的改革の主要な内容は、次のとおりである。

４　地方政治では「住民が主人公」を貫き、住民の利益への奉仕を最優先の課題とする地方自治を確立する。

（一三）民主主義的な変革は、労働者、勤労市民、農漁民、中小企業家、知識人、女性、青年、学生など、独立、民主主義、平和、生活向上を求めるすべての人びとを結集した統一戦線によって、実現される。統一戦線は、反動的党派とたたかいながら、民主的党派、各分野の諸団体、民主的な人びととの共同と団結をかためることによってつくりあげられ、成長・発展する。当面のさしせまった任務にもとづく共同と団結は、世界観や歴史観、宗教的信条の違いをこえて、推進されなければならない。

―中略―

統一戦線の発展の過程では、民主的改革の内容の主要点のすべてではないが、いくつかの目標では一致し、その一致点にもとづく統一戦線の条件が生まれるという場合も起こりうる。党は、その場合でも、その共同が国民の利益にこたえ、現在の反動支配を打破してゆくのに役立つかぎり、さしあたって一致できる目標の範囲で統一戦線を形成し、統一戦線の政府をつくるために力をつくす。また、全国各地で革新・民主の自治体を確立することは、その地方・地域の住民の要求実現の柱となると同時に、国政における民主的革新的な流れを前進させるうえでも、重要な力となる。

この「綱領」に書かれていることと今回共産党が突然、公認の独自候補を立てたことは食い違うような感じがしました。「世界観や歴史観、宗教的信条の違いをこえて」とか「さしあたって一致できる目標の範囲で統一戦線を形成し、統一戦線の政府をつくるために力をつくす」ことを適用したらよかったのではないのかなあ、と思った次第です。

できればこのあたりのことについて共産党関係者の見解を聞いていただければありがたいです。

●１１月１２日（木）午前１０時２９分、Ｔ．Ｙ

「神戸をどう変えるのか」ということを議論しないと、せっかく「神戸再生フォーラム」として第１３次案まで作ってきた政策作成の努力はなんだったのか？ということになってしまいます。

「どんな神戸に」というテーマが必要です。もし、リコール運動などを起こすとしたら、もっと明確なテーマ（神戸空港・中央市民病院・雇用など）が必要になるでしょう。Ｍ．Ｍさんが言われた「震災復興を終わらせる神戸市政」というところへ根をおろした議論が必要だと思います。

日本共産党の離脱はまったく心外なことですが、そこが意外と票をとったのは、政策が明確で神戸市民の願いに合致したものであったことが考えられます。真意はさておき。それによって共産党以外の票がかなり入ったのだと思います。この４年間「神戸再生フォーラム」こそ、神戸市民の願いにそって議論してきたのに残念です。

●１１月１４日（土）午後１１時２分、Ｔ．Ｈ

投票率がアップしなければ勝てないことはかねてから指摘されていました。前回の３０．２３％から３１．５１％の微増に止まったのがなぜかという点です。総選挙との対比でよく言われたのは、争点が明らかでなかったという点です。

「６０年続いた助役市長を許すのか」という点は確かに争点になりましたが、意識の高い有権者に止まりました。やはり、神戸市政の転換が生活や権利を大きく左右すると思わせる市民運動が、９８年の神戸空港・住民投票以降十分につくれていないことを考えさせられました。

例えば、東灘の御影工業高校跡地のマンション建設問題など、一部の方が精力的に取り組み、チラシ全戸配布などを取り組まれていました。そういった個々の問題を広く市民的に問題提起して市民全体の意識を掘り起こしていく努力をしていかなければと思いました。

神戸空港も日本航空の撤退や造成費返済の借り換えで重大な岐路に立たされ、医療産業都市構想の根幹に座るスパコン事業への国の冷淡な態度など、現市政の開発優先路線がおおきな曲がり角を迎えている時だからこそ、大胆な方針提起が求められています。

【資料２】「お尋ね」
日本共産党兵庫県委員会　御中

２００９年１０月２２日
神戸再生フォーラム

神戸を変えるため、候補者の一本化を

－神戸市長選挙での独自候補擁立問題等に関するお尋ね－

候補者一本化に向けて

「神戸再生フォーラム第９回臨時総会」翌日の９月２８日（月）から早速、日本共産党兵庫県委員会の岡正信県委員長に「候補者一本化に向けた協議の場の設定」を申し入れました。岡氏の回答は、「話し合いについては、近々は無理。但し、連絡は頻繁に取り合おう」とのことでした。

候補者一本化に向けて最後まで最大限の努力を払うことを改めて確認し、以来５回にわたって話し合ってきました。

・１０月　１日（木）、森勇治副委員長。
・　同　　５日（月）、岡正信委員長。
・　同　１０日（土）、岡正信委員長。
・　同　２１日（水）、岡正信委員長。

２５日（日）の投票日が近づき、マスコミの調査が明らかになるにつれ、神戸再生フォーラム（フォーラム）には、多くの市民・業者の方々から「候補者の一本化を」「勝てる選挙をしたい」という悲痛な声が日増しに寄せられてきています。残された時間は少なくなりましたが、神戸を変えるため、最後まで努力を尽くさなければならないと考えています。

フォーラムは、一本化実現のためさまざまな努力を重ねてきましたが、この間、日本共産党の動きに対して各方面から疑問が噴出してきましたので、下記に具体的な事項を列記致します。一本化に向けての障害を除去するためにも直ちにお答えいただきますよう要請致します。

いつごろから「枠組み離脱」を考えていたのか

さて、９月２４日（木）に日本共産党の公認候補・松田隆彦氏が立候補表明した後、同県委員会幹部による説明・説得活動が、地区委員会と支部、そして共産党後援会に行われました。参加者によりますと、フォーラムとの枠組みを離脱した理由を明確に答えることができず、樫野孝人氏の政策と同県委員会との政策のわずかな違いをことさらに誇張して説明（神戸市民病院移転、敬老パス、中学校給食）、一致する政策については全く触れられませんでした（住民投票、中小業者支援、福祉）。

これらの説明・説得活動の影響は、フォーラムの事務局にもストレートに及び、「どうして共同の候補者にならなかったのか」などの問い合わせが相次ぎました。

もともと、フォーラムと樫野氏の政策の一致度は１００％ではありませんが、共通する部分が多く基本的考え方においては共通の土俵に立っています（３つのチェンジ）。フォーラムの政策と酷似した同県委員会の政策でも同様です。樫野氏の当選により、神戸市が変わることは明らかです。共通するところを覆い隠し、違いを際立たせているのは、同県委員会が独自候補を立てる理由を市民に理解してもらうのが困難であったからです。

日本共産党兵庫県委員会は、友好関係にある労働組合・民主団体と８月７日（金）頃に協議、フォーラムとの枠組み離脱を考えていたとの情報があります。それが事実ならば、まさに「言いがかりをつけて、離婚する」つもりだったということです。

岡正信委員長とは７月末以来４回－７月２８日（火）、同３０日（木）、８月５日（水）、９月４日（金）ー、刻々の情報提供と意見交換を重ねました。７月３０日（木）と８月５日（水）の両日、岡氏から「兵商連、保険医協会に対し、他の民主団体に先行するのは困る。同一歩調がとれるまで、待ってほしいと要請した」。これに対しフォーラムは、「構成団体である兵商連、保険医協会の“足”を止められると、会としての意思決定ができない。阻害することは止めてほしい」と伝えました。また、８月５日（水）に岡氏は「共同できる候補者の条件として、①大企業を優先しない。②国とたたかう。③排除の論理をとらないこと」を挙げました。なお、８月３０日（日）深夜、「日本共産党が、独自候補を考えている・・・」との有力な情報も得ています。

岡氏がフォーラムから情報提供を受けながら、枠組み離脱を企図していたとしたら、それは、フォーラムに対する背信行為と言わざるを得ませんが、この点につき、まず事実経過と内容を明らかにして下さい。

随所で事実の歪曲と事実に反することを説明

９月末から１０月にかけての日本共産党兵庫県委員会幹部による説明の中では、次のようなことが語られています。なお、⇒の箇所は、フォーラムのコメントです。項目ごとにお答え下さい。

１．岡氏は１０月１０日（土）、フォーラムとの話し合いの場で「高田富三事務局長を候補者としたら、枠組みを崩さないですむので、いいのではないかとＫ・Ｓ氏に言っておいたのだが、聞いてもらったやろか」と表明。

⇒この表明は、９月１７日（木）時点での表明と矛盾します。９月１７日（木）の第１１回懇談会の席上、岡氏は「樫野孝人氏は推薦できない。現状で言えば、独自候補を準備する。これは宣言だ」と表明していました。フォーラム側から「独自候補」とは、「神戸再生フォーラムの方で保留をしていただいている候補のことか？それともフォーラムのメンバーか？」と尋ねたところ、岡氏は、「それは、違う」とし、日本共産党は従来の枠組みを崩しました。ところが１０月１０日（土）になって、「高田富三候補なら枠組みを崩さないですむ」と言い出したのは明らかな矛盾です。その日すぐにＫ・Ｓ氏に尋ねたところ、「そのようなことは全く聞いていない」とのことでした。

２．前回市長選挙の候補者・瀬戸恵子さんを日本共産党の衆議院比例候補にする時は、神戸再生フォーラムには事前に礼を尽くして説明し、事前了解を得ています。瀬戸恵子さんも事前に了解を得ました。

⇒これは事実に反しています。実際は、次の通りです。２００７年１０月１３日（土）の朝、突然、岡正信県委員長から事務局長の高田富三宛に「兵庫県委員会の事務所に来ていただけないか」との電話連絡があり、事務所を訪問したところ岡氏から「本日午後、中央委員会幹部会が開かれる。その場で、衆議院選挙の比例候補を決める。その比例候補に瀬戸恵子さんをあてることにした」。これは、事前了解ではなく、直前の通告でした。また、瀬戸恵子さんからは何らの挨拶もありませんでしたので、１１月６日（火）に開催を予定していた神戸再生フォーラム第５４回拡大代表・事務局会議（兵庫県保険医協会会議室）への参加を強く要請し、挨拶の場を設定しました。

フォーラムが困難を克服して擁立した神戸市長候補が、１０万票を超える支持を集めました。この努力の成果を日本共産党が「鳶があぶらげをさらう」ような政治判断をしたことに、多くの関係者が憂慮の念を抱きました。同年１０月２６日（金）夜、村井雅清（代表）、高田富三（事務局長）、出口俊一（事務局次長）の３人が日本共産党兵庫県委員会の事務所を訪れ、岡正信（委員長）、森勇治（副委員長）、松田隆彦（書記長）の３氏と会談し、経緯を糾し、遺憾の意を伝えました。そして、最後に「新社会党にはこの経緯を伝えて、きっちりと挨拶をしておいていただきい」旨を要請し、その場で了解を得ていましたが、その時の確約は実行されませんでした。このことも信義に悖ることと言えます。

岡氏は、「比例単独なので、投票用紙には“瀬戸恵子”と書かないからいいのではないかと思った。悪気はない」と。松田氏は、「市長選挙に出たからといって、今後の選挙に出ることはおかしいとの指摘は、瀬戸さんの被選挙権を奪うことになる」と。森氏は「赤旗」掲載の瀬戸恵子さんの写真について糾されると、「先日の『赤旗』に掲載した市長選挙時の写真は、手違いでした。すぐに差し替えるようにしました」。これが兵庫県委員会幹部の見解と態度でした。

「事前に礼を尽くして説明し、事前了解を得ています。瀬戸恵子さんも事前に了解を得ました」ということではなく、日本共産党の幹部にとって都合よく歪曲されています。

３．日本共産党独自で去年の暮れから数人の方にあたってきたが、承諾は得られなかった。

⇒政党として独自に候補者を探すことは当然でしょうが、神戸市長選挙の候補者選びについては、日本共産党と新社会党、それから神戸再生フォーラムの３者で協議をしてきており、フォーラムからは「政党の方からも推薦者があればご提案を」と要請しましたが、２政党からは「神戸再生フォーラムの方で探してほしい、選んでほしい」との要請も受けて、独自に取り組みをすすめ、その都度２政党にも報告してきました。日本共産党の担当者は、西下勝氏（県常任委員、前神戸市会議員団長）でしたが、西下氏からは「去年の暮れから数人の方にあたってきたが、承諾は得られなかった」などの説明は全くなされませんでした。事実はどうであったのかの説明をする責任があります。

４．樫野氏は、新自由主義者だ。危険だ。

⇒これと同じような非難は、８年前の候補者・木村史暁氏にも擦り付けられたレッテルです。論証抜きで「新自由主義者」とレッテルを貼って、日本共産党の関係者に植え付けていこうとする手法は、「あの人はアカだ。共産党だ。危険だ」といわれもない非難をする封建的な思想と共通するようでとても危険ではないでしょうか。神戸市職労など労働組合の幹部も「樫野は、新自由主義者だ」と頻りに攻撃をしていると伝えられています。

５．９月２７日の神戸再生フォーラムの臨時総会では、兵商連など主要３団体の代表が退席したあと、採決をした。

⇒これも全く事実に反します。総会参加者は、誰一人退出することなく、圧倒的多数の方の拍手にて承認され、午後８時３０分に終了しました。なお、８時３０分からのⅡ部は、集会に切り替えました。この時に若干の方は、退席されました。すぐに虚偽の内容だと判明することも知らない人には効果があるのかも知れませんが、卑怯な手法は、日本共産党にはにつかわしくありません。

６．共産党は、嵌められた（日本共産党神戸市会議員のＭ・Ｓ氏）。

⇒ここでも日本共産党が被害者のように描かれています。どうして、このようなデマが平然と語られるのでしょうか。日本共産党、新社会党、神戸再生フォーラムの３者は、友好的雰囲気の中で１１回に及ぶ話し合いを重ねました。担当者は、日本共産党は西下勝氏（前市会議員団長、県常任委員）、新社会党は粟原富夫氏（市会議員団幹事長、県委員長代行）、神戸再生フォーラムは村井雅清（代表）、高田富三（事務局長）、出口俊一（事務局次長）の３人が主なメンバーです。日本共産党の西下勝氏は、９月に入るまでは「独自候補」のことなどには全く言及しませんでした。専ら、樫野孝人氏とフォーラムとの遣り取りの報告を中心に、友好的雰囲気の中で情報交換や意見交換がなされました。神戸市会議員の公職にあるＭ・Ｓ氏が「嵌められた」などの不穏当なことばを公言した以上、なぜそのような認識に至ったのかを明らかにする説明責任があります。「嵌められた」という言葉は、その言葉を発した神戸市会議員Ｍ・Ｓ氏にお返しする必要がありそうです。

「討議用文書」にも事実の歪曲・矛盾が充満

また、「神戸市長選挙・討議用文書」（神戸市長選挙闘争本部、９月２９日付）が配布されています。本文書の特徴は、以下の通りです。⇒の箇所は、フォーラムのコメントです。下記のことにも項目ごとにお答え下さい。

１．候補者決定が遅れたことは、心からおわびいたします。

⇒なぜ遅れたのかが、書かれていません。経緯を書けないのかも知れません。

２．松田隆彦候補は、・・・・・最適の候補者です。

⇒「最適の候補者」なら西下勝氏はなぜ推薦しなかったのか。神戸再生フォーラムに全面的に任せる態度を取り続けていたのは一体何だったのか。自画自賛、自己満足の類です。

３．樫野孝人氏の問題点を４項目記述しています。

①「新人候補」は、「神戸の住民運動とは、これまでまったく無縁の人です」

⇒候補者選考時に、このような言明は一切ありませんでした。８年前の木村史暁氏を推す前の時期に、同様の言明がなされていましたが、それは克服したはずではなかったのでしょうか。

②「住民投票☆市民力」の市議の全面的な応援をうけていることも明らかです。

⇒「住民投票☆市民力」の井坂信彦氏の紹介であることは２政党には、当初から伝えていましたし、途中経過も伝えていました。何が言いたいのかが不明です。

③大阪府の特別顧問で「新自由主義の教育関係者」といわれる人がブレーンになっています。

⇒「ライトからレフトまで」というフォーラムの方針には、８年前の選挙時から日本共産党も賛成していました。「ライト」方面から参加があると、直ぐにレッテル貼りをして拒否反応を起こすようでは、「総論賛成、各論反対」の類で矛盾していると言わざるを得ません。

④出馬会見などで、「神戸空港は利活用をはかる」と主張。市政の大事な問題で現市政と同じ立場。「オール与党」政治と対決する姿勢が見られず、市政を転換する基本的立場と政策がないといわざ

るをえません。

⇒何れもこじつけの類で、不正確な認識をもとに書かれています。日本共産党の対決姿勢をそのまま樫野氏に求めるのは不適切ですし、１９９５年１月の阪神・淡路大震災までは日本共産党も与党の立場で、当時の笹山幸俊市政の施策には賛成してきており、とりわけ、１９９０年３月の「神戸空港の第６次空整の組み入れに関する意見書」、つまり神戸空港建設推進決議にも賛成していました。この時の誤りについては、その総括がいまだに公表されていません。

４．一致して共同して選挙をたたかう条件がないことは、明らかです。

⇒「明らか」でないものをいきなり、無理矢理「明らか」と結論づけています。不正確な認識と論証抜きです。「樫野はダメ⇒独自候補」という結論が先にあるような展開です。

５．日本共産党と市民の共同の力で打ち破り、松田隆彦候補・・・・・市民の期待にこたえる市政を実現する。

⇒市民の共同を壊しておきながら、「市民の共同の力で」というのは欺瞞の類です。

また、経過の中には、一切日付が書かれていません。事実と真実が書かれていない「討議用文書」は、虚しい限りです。

日本共産党の独自候補擁立のため、板挟みとなったり、どちらに投票すればいいのか悩み、迷惑を被っている良心的な市民に対して、この間発生した諸問題にきっちりと説明をしていただきますことを要請致します。なお、９月２３日（水）午後に提出しました要請書「独自候補擁立は思いとどまってください」のお答えは、いまだにいただいておりません。応答には責任をもっていただきますことも併せてお願い致します。

以　上

【資料３】神戸再生フォーラム会則

（附則２．２００５年３月　１日）
（附則３．２００６年４月　３日）
（改正　　２００６年４月　８日）
（改正　　２００６年４月２８日）
（改正　　２００８年４月　６日）

神戸再生フォーラム会則

第１条(名称)　この会は、「神戸再生フォーラム」(英文：Kobe　Renaissance　Forum 略称:REKOBE)という。

第２条(所在地)　この会は、事務所を神戸市内に置く。

第３条(目的)　この会は、「一人ひとりの市民が主役のまち神戸」の実現に向け、神戸のすべての問題を住民自治の立場で考えながら、神戸を再生する政策の策定に取り組み、神戸市民に提案していくことを目的とする。

２．策定された政策の内容を神戸市民に正しくわかりやすくして広めるとともに、「一人ひとりの市民が主役のまち神戸」の実現のため、政策を実行していく人的・組織的準備をすることを目的とする。

第４条（事業）この会は、第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

①調査・研究・政策・選挙工学に関する提言
②研究会・講演会・シンポジウム等の開催
③政策等に関する刊行物の発行
④各区の抱える問題と対策を区民とともに提言
⑤会の目的と共通する他の団体･個人との共同による提言
⑥その他目的を達成するために必要な事業
⑦上記に必要な広報活動

第５条(会員)　この会の目的に賛同し会の行事に参加の意思あるものを会員とする。

２．会員名簿は会事務所に置く。

３．会員は任意に脱退できる。

４．会は、総会の承諾を条件として、半年以上にわたり連絡が取れない会員を除籍することができる。

第６条(会費)　会費は、年３，０００円（一口）以上とする。

第７条(役員)　この会に次の役員を置く。

代表　　若干名
会計　　１名
事務局　　若干名
会計監査　　１名

２．代表・会計・事務局及び会計監査は、総会にて選出される。

３．事務局に事務局長、事務局次長を置く。役員は会計補佐を置くことができる。

第８条(役員の任期)　役員の任期は就任１年後の定期総会開催日終了までとする。

第９条(代表)　代表は、会を代表する。

第１０条(顧問)　会は、若干名の顧問をおくことができる。

２．顧問は、憲法及び地方自治法の精神または国際的な住民自治の視野から会に助言を与えることができる。

３．顧問は、役員が指名する。

第１１条(運営)　会は、毎年１回定期総会を開催し、この会の方針、役員の選出を含む重要事項について審議･決定する。個別に重要事項を審議･決定する必要の都度、会員及び役員の申し出により代表が臨時総会を召集する。

２．総会の方針に基づき日常の運営は代表･事務局会議で決定し、事務局が執行する。

３．会のすべての運営は、出席者の過半数の意思をもって決定する。

第１２条(区の会)　会は、神戸市内９区に、それぞれ「区の会」を置くことができる。設置について、代表・会計・事務局が決定し、事務局が執行する。

第１４条（個人・団体の協力）会は、第４条の事業を推進するために、会員以外の個人・団体の協力を随時求めることができる。

第１５条(財政)　会費と会の事業、会員及び会の目的に賛同する個人･団体･法人による募金をもって運営する。

２．会の帳簿は会の事務所(正本)に置く。会計の指定した場所に副本を置くことができる。

第１６条(改正)　この会則は総会出席者の過半数の同意をもって改正することができる。

以　上

附則

１．会の事務所は当面、神戸市灘区宮山町３－１－１６　ステラ六甲２０２号に置く。

２．２００５年３月１日、事務所移転　神戸市灘区宮山町３－１－１６　ステラ六甲１１１号。

３．２００６年４月３日、事務所移転　神戸市中央区中町通３－１－１６　サンビル２０１号。

下記は、“１２・１第７回神戸市政フォーラム”（神戸市産業振興センター／５０人）に寄せられた樫野孝人氏の「メッセージ」と、当日の参加者の意見・感想です。

メッセージ

かしのたかひとです。
本日参加できずに非常に残念です。 申し訳ありません。

また、ご存知ように選挙について、お礼やお詫びの文書配布の禁止という公選法上のルールがあるため、歯切れの悪いメッセージになることをお許しください。

神戸市長選では
みなさんの熱い想いやご支援にお応えできなかったことを、今更ながら重く受け止めています。

とはいえ、出た結果を真摯に受け止め、 前向きに「何が出来るか？」を考えているところです。

かしのが実現したいことは、「神戸を良くすること」なので、
マニフェストに書いたことの中で、市長でなくても出来ることは、 具体的に始めようと思っています。

また、今回の住民訴訟の問題では
市長だけではなく、市会の改革も急務だと思われますし、
空港問題、スパコン問題では国との関係作りも今まで以上に重要だと、再認識しています。

やることは一杯、体は一つ。
整理できたら是非皆さんと共有させてもらいますので、よろしくお願いします。

最後になりますが、
かしのの情熱は全く衰えてませんのでご心配なく（笑)。

またお会い出来るのを楽しみにしています。

２００９年１２月１日

かしのたかひと

２００９年１２月１０日

１２・１第７回神戸市政フォーラムでの意見と感想

１．会場での意見とアンケート

●Ｍ．Ｍ

・プロを超えたアマチュアとしての自覚と誇りを持とう。

・心の仕分けが必要だ。

●Ｎ．Ｋ

・本日の企画が変わっている。おかしい。主催者側の話しが長い。

・神戸空港問題だけではない。但馬空港も湾岸道路のことも検討が必要だ。

・矢田立郎の１６４０００票の中味の分析が必要だ。

・候補者は、神戸市民から選ぶべし。マニフェスト、カタカナが多過ぎる。

・民度が低い。神戸市会議員の質をみればわかる。

●Ｔ．Ｈ

・現職の求心力は確かに低下。「助役市長ではダメ」は、世論になっている。

・市民の側から、開発優先からの転換の対案提示を。

・投票率アップのためには、取り組みの継続を。

●Ｙ．Ｔ

・経過はわかるが、共産党の独自候補の件について神戸再生フォーラムは感情的になっていないか。

・選挙母体のあり方、政党のあり方について総括を。

・政策協定は、文書にすべき。

・「小異を捨てて、大同につけ」。「大同」とは、憲法９条、２５条、地方自治の３目標。

●Ｔ．Ｋ

・矢田陣営の得票率は、決まっている。今後、持続的に取り組みを。

・矢田派の妨害と共産党が市民を裏切って、「赤旗」でデマゴギー。見苦しかった。

・樫野選対との関係については、きっちりと総括を。

・樫野氏は、意欲的で市民的常識をもった人。樫野氏は、有力な候補者の一人。

・広原盛明さんは自身のブログで、神戸再生フォーラムのことを「日本の中でも最先端の市民団体だ」と、高く評価。

●Ａ．Ｔ

・村井・高田・出口の３人が辞めるような情報があったので、気になって参加した。そうならないようなので、安心した。

・神戸再生フォーラムがなぜ、大事なのか。大震災以来の思いをもっている人たちのグループだから・・・。

・候補者、神戸再生フォーラムの中から出したら問題はない。今回は、オウンゴール。

・勝つ時は、「押し倒す」ことが必要だ。

●Ｓ．Ｙ

・樫野氏は、見たところ悪くはないようだ。

・「小異を捨てて、大同につく」と言うが、「大同」を捨ててもいい。

・Ａ．Ｔさんの「押し倒す」は、いい言葉だ。
・大震災から１５年も経って、これから神戸再生フォーラムは、どうやっていくのか。
・エネルギーを高めるための工夫が必要だ。毎年、毎年考える必要がある。
・政党がどう動こうとも、市民本位・市民レベルでどうやっていくかがカギ。

●Ｉ．Ｋ
・『総括文書』の１８ページ下段が、ポイント。
・今回の市長選挙は、一体何だったのか。

●Ｎ．Ｊ
・選挙の様相は、一回一回違う。毎回、違うのではないか。だから、政策協定のことなどは、その時に考えたらいい。
・選挙総括は、関係した各団体がすべきだ。そのことを求めたい。

●Ｋ．Ｈ
・総括は、１１月１２日の運営委員会にて行った。
・一番問題になったのは、神戸空港のこと。我々の方針とは少々違った。
・今回、政策協定を結べなかった。担保のないまま、突っ込んだ。

●Ｋ．Ｔ
・神戸再生フォーラムの流れは、一貫して追求してきたこと。
・政党と樫野選対の二つの勢力の妨害があった。
・３者の枠組みの修復を。神戸再生フォーラムをもっと広げていくこと。各区の会をつくっていくこと。市会議員の擁立も考えていくこと。
・首長選挙は、いろんなパターンがある。共産党に問うていただきたい。

●Ｔ．Ｍ
・問題は、投票率が低かったこと。
・機関紙「神戸再生」など、神戸再生フォーラムはセンスがいい。もっと、若い人がいると思った。

●Ｍ．Ｍ
・こんな総括は、すんでから１か月が旬。膨大な総括文書だ。共感と違和感を同時にもった。共産党との軋轢の記述の分量が多い。
・政策協定、いかなる団体とも結ばない方がいい。流れは変わっている。枠組みも再検討を。

●Ｍ．Ｈ
・日本共産党兵庫県委員会の一部幹部が間違った。

●Ｍ．Ｆ
・次の選挙に向けて神戸のオバチャンにもわかる選挙のレールを引いて下さい。

●Ｆ．Ｋ
・先ごろ東北の栗駒に行った。地元の人が温かかった。神戸もあったかい市政をつくる人を市長に。

●Ｋ．Ｓ
・尤もな話しばかりだが・・・。組織は、見放されている。発信力が必要だ。

●Ｗ．Ｙ
・初めて出席させていただきました。一度、樫野様のお話を聞けるかな、と思って参りました。
・これから、市民の中で立ち上がっていくことの大切さを思っています。
・「神戸は変わる」、どう変えていけるか、勉強させていただきます。

●Ｋ．Ｓ

・独立した市民の協働でここまでの活動をされていることに頭が下がります。

・ただ反面、会に直接参加していない私が、会の様子や活動をほとんど知らなかったことからも、より一般的な層へアピールし、距離を縮めることも必要なのでは、と思います。

・簡単な思いつきとしては、映画や音楽関係の人などをアドバルーンにして、地域のことや市民運動に親しんでもらう、というのはいかがでしょうか。他のＮＰＯやボランティアグループと連帯して、ともかく「動く市民」を増やすこともいいのでは。福祉や地域問題を入口にする方法も良い。

２．メールで寄せられた感想

●１２月２日（水）午前１時３０分、Ｎ．Ｓ

先程、神戸再生フォーラムの「第７回神戸市政フォーラム」（市長選総括会議）から帰ってきました。（少々酩酊気味。財布をお店に忘れ、親切な人が預かっているようで安心ですが）

「主義を抑えろ」とはあくまで首長選挙の時の話で、国政など「政党選挙」では話は別です。私も少々舌足らずでした。会議で、「政策協定を堅持せよ」という意見は一人だったと思います。

程度の差はありますが、再生の選挙方針に賛成の人がほとんどでした。

つまり、遊牧民さんの考えに近い人は皆無。これが多くの神戸市民の思いであり、願いだと思います。

・・・

とつにして選挙活動に携わってこられた再生の皆さんの素晴らしさに比べ、私は建前と本音が少し違っていて「偽善者」だという思いにずっと苛められていました。
しかし、昨日、皆さんの意見をお伺いしていて、皆一人ずつ意見は違うし、そうだからこそ発展もあるし、話し合う中で学んでいけばいいのだということを再確認しました。ちょっと気が楽になりました。
今回の選挙で私なりに思ったことです。

１．選挙前に手当たり次第、友人や知人だけでなく、公園であった人や、新聞集金などの人、ヘルパーさんなどに誰に入れるのか、またその理由を聞きました。聞いた人の 99 パーセントが矢田には入れないという返事でした。そしてその半分が樫野氏に入れるとのことでした。あとの半分は、適当な候補者がいないので迷っている、白票にするかもしれないし、選挙に行かないかもしれないとのことでした。
大半の人が矢田市政にうんざりしていたようです。その票が樫野氏に入ったと思います。残念ながら、どうしても樫野氏に入れたいという積極的な意見というのは聞けませんでした。私もいままでそうでしたが、誰に入れるかは大半の人は広報などの公約を読む程度で判断します。話す機会もないし、人間性がどうこうなどわかりません。
樫野氏のマニフェストが多くの人に票を入れよう、選挙に行こうという気にさせるものではなかったのではないかと思えます。もう少し、マニフェストに工夫をされたほうが良かったと思います（今日も意見の出ていたカタカナが多すぎる点や、切実な問題に絞り込んだもの、現実的なことに）。

２．選挙で最初から最後まで視点がぶれず、神戸市民の方だけを見ていたのは再生の方たちだけでした。どんな時にも候補者を信じ、励まし、最後まで諦めず、再生が出来ることの全てをされました。「信じること」、それが一番大切であるということを私は再生から学ばせて頂きました。再生への信頼度が更に強くなりました。

３．文書協定ですが、候補者にとってどの程度の制約を受けるものかわかりませんが、再生こそ神戸市民の方を向いて活動している団体です。その団体との協定を結ぶ事に異議がある候補者というのは私にはあまり信用できません。また再生が候補者を制約するような協定を結ぶはずがないとも思います。

４．樫野氏については私はよくわかりません。次回も選挙に出られるのか、再生が候補者とするのかもわかりませんが、樫野氏がどれだけの決意を持っているのかは、私はこれからの活動をみて判断したいという気持ちです。

５．市民病院問題、次から次へと神戸市の問題が浮上する中、このまま無駄にお金を使っていいのかという思いです。署名してくれた人からあの活動はどうなっているのかとも聞かれました。２０万票を集めるとの勢いで始まりましたが、その後、どうなっているのでしょうか。

６．再生の素晴らしさはＴさん、Ｄさん、Ｍさんという執行部がいらっしゃってのことです。３人の人間性とお互いを補い合うバランスの良さは抜群です。３人がいらっしゃらないと駄目です。これからもずっと引っぱっていって下さい。再生の一般への認知度が深まって欲しいです。そして再生は絶対に変わらないで欲しいという気持ちでもあります（目的に向かう姿勢という意味ですが）。

７．昨日、東灘区の区の会が樫野氏と集会をされるということでした。次の選挙につなげるためにとのことでしたが、私はちょっと疑問を持ちました。再生は樫野氏の後援会ではないと思います。また次期、候補と決まっているわけでもないと思っています。再生と区の会との関係はどうなっ

ているのでしょうか。区の会は独自で動くのでしょうか。区の会は再生のやっていることを広く知ってもらうために存在し普及活動して、そのことが結果的に、選挙に繋がるものであるということではないのかと思えます。再生の活動を見ていたら信用できる団体である、だから再生が候補とするならその人を応援する、という気持ちになってもらえるような普及活動が今、まず必要だと思います。

８．再生ファンとしては個人的に何が出来るのかと考えました。いつもメールで送っていただいている集会チラシ、あれを出来るだけ沢山印刷して、近所中に配ること、財政的基盤に問題があるとのことですので、守る会でもやっているガレージセールをまずは個人的にやって協力できたとも考えています。

好き放題を書いてしまいました。すみません。これからも宜しくお願い致します。

●１２月７日（水）午後２時５１分、寺下昌宏（大阪府堺市）

２００９年１２月１日（火）１８：３０～ 神戸市産業振興センターにて行われた、第７回神戸市政フォーラムに参加しました。主催は神戸再生フォーラム（以下、神戸再生）で、前半は先の神戸市長選挙の総括（案）の提案と神戸空港の問題について講演が行われ、後半は質疑討論の時間でした。

前半の講演では、選挙結果の詳細な得票結果や選挙前と期間中の再生を取り巻く状況について説明がありました。また神戸再生が協力？応援？推薦？を申し入れた樫野孝人元候補は欠席でしたが、１２・１のためにメッセージが送られていました。そのメッセージには、「かしのが実現したいことは、『神戸を良くすること』なので、マニフェストに書いたことの中で、市長でなくても出来ることは、具体的に始めようと思っています」と、記されていました。

後半の質疑討論に当てられた時間は大幅に時間を延長し、活発な意見が交換されました。大半は選挙結果に関するもので、残念ながら神戸空港に関する意見は少数でした。たとえば、共産党が独自候補を立てたから負けた、神戸再生に参加する各団体の足並みが揃わなかったから負けた、樫野元候補の選挙対策本部から妨害を受けたから負けた、などに意見が集中しました。一方で、市民運動なのか政治団体なのかを自問自答する意見もありました。

初めて神戸再生の会議に参加した私には、神戸再生の運動趣旨や立場、組織構成などの情報が全くありませんでした。そんな不安なままの参加でしたが、参加者の赤裸々な感情が表現された、一生懸命な意見交換会でした。私としては逆に先入観もなく、生の神戸再生を体感できたことがとても有意義でした。運動チラシなどは強烈すぎるが的を射た、趣旨がわかりやすいもので、かなりセンスのいい集まりに思えました。あまりにセンスがいいために、３０代が中心の集まりかと想像しましたが、高齢な集まりが中心であることが意外でした。それくらいセンスがよいといえます。

特に印象的だったことは、「難しいことはわからないですが、次の市長選では、こんなおばちゃんにも分かるようにして欲しい」とある女性が発言されたことです。インテリなことをああだこうだとうんちくを垂れても、投票する人の気持ちを動かすことは出来ないということ。おばちゃんはもう既に次の４年後を見据えているという、忍耐強い気持ちで居ること。この女性に市民運動の原点を聞かされ、これまで行ってきた自分たちの運動はやっぱり正しかったんだと確認しました。コツコツやるしかないんだ、広く市民の共感を得るような市民運動こそ支持されるということを痛感しました。

選挙を身近に感じないと投票率は上がらない、「市民力」とは投票率だという樫野元候補の意見に同感です。ただ市民運動は政治団体とは異なるので、難しい一面があります。その辺が神戸再生の市民運動たる所以で、勘違いしている参加者が「足並みが揃わなかったから負けた」と感じたのではないで

しょうか？加えて、神戸再生の事務局や参加団体に政治色が強かったことが、勘違いさせる要因だったのかも知れません。

神戸の震災は一次災害（倒壊や火災）、二次災害（災害後の精神身体疾患）、三次災害（復興と称して箱物利権市政が横行）に分かれるようです。二次災害の対応も十分でないにもかかわらず、建設を中心とした復興事業に傾注したことが真の神戸の震災復興を妨げているよいう観点で、神戸再生フォーラムは活動をしていると意見がありました。

そこに結集する団体や市民が掲げる市民活動をそれぞれに掘り下げると、前述の真の神戸の震災復興に行き着くのではないでしょうか？だから結集できたのではないでしょうか？ところが、もう少しで手が届くかもしれないとなった時、神戸再生の参加者の多くは目の前の小事にこだわってしまったのかもしれません。

私も堺市長選で同じような気持ちを抱きました。新日鐵、関西電力、大阪ガス、クボタなど地元大企業の支援を背景に三選目を目前にしていた行政出身の市長に対して、市民は対抗馬を擁立できずにいました。そこに大阪府出身の候補者が大阪府知事のトルネードとともに現れ、市民議論もないまま、あっという間に目標をさらいました。誰も予想できなかったことです。

投票前、私たちは仲間と集まり堺市市長選について議論しました。各々が集めた情報を精査した結果、「義」を立てるか、「変」を取るか、長時間の議論が続きました。恐らくこのときの情報収集の仕方や全候補の参加による討論会開催が原因で、我々を「政治的」と一部で批判されている方がいるのかもしれません。最終的には各自の判断に委ねることとなりました。

堺と神戸の各市長選を比較してみると、①堺で自公民の相乗りは通用しないことを彼らは学び、神戸では小沢幹事長の意図で民主の単独推薦という形の陣形をとりました。②先の衆議院選で市民は変えることが出来ることを知り、その力も強大ですが、自主的な投票行動に表すには十分な起爆剤が未だ必要です。堺では建設業界の強力な支持を得ている橋下知事が起爆剤となり４２％の投票率でしたが、神戸では神戸再生がその任を果たせずに３１％ほどに留まりました。③堺、神戸ともに行政出身候補が当選し、いずれの候補も市民活動の経験がなく、市民グループからの応援はありません。堺、神戸ともに負けたのは市民です。ただし堺の候補は新人で未知数ゆえに、今後の市政運営によっては市民が勝利したことになるかもしれないという市民も存在します。

２大政党政治の是非は分かりませんが、国会議員をはじめ県会議員など、政党政治は多いに結構です。市会議員はそのレベルが低すぎることからちょっと微妙ではありますが、それは民度のバロメーターでもあります。一方で、二元代表制である首長選挙は、政党色のない、市民の代表がその責任を果たすべきであると考えます。現に多くの首長選挙では、政党は公認しません、推薦です。

企業vs市民という構図とは考えませんが、首長選挙は企業の支持で成り立つケースが往々にして見受けられます。市町村の繁栄に企業は必要条件ですが、十分条件ではありません。首長は企業をあてにするのではなく、指導誘導すべき立場です。ましてや企業の言いなりになる首長はあり得ません。一方で市民活動は政治活動でも企業対決でもありません。市民活動とは、政党や企業と協働できる市民ボランティアです。そのバロメーターの一つが投票率であると信じます。

神戸再生のことがもっと知りたいと思いました。神戸再生が応援した樫野元候補のことがもっと知りたいと思いました。

ReKobe 神戸再生フォーラム

第7回神戸市政フォーラム

第17回神戸市長選挙総括

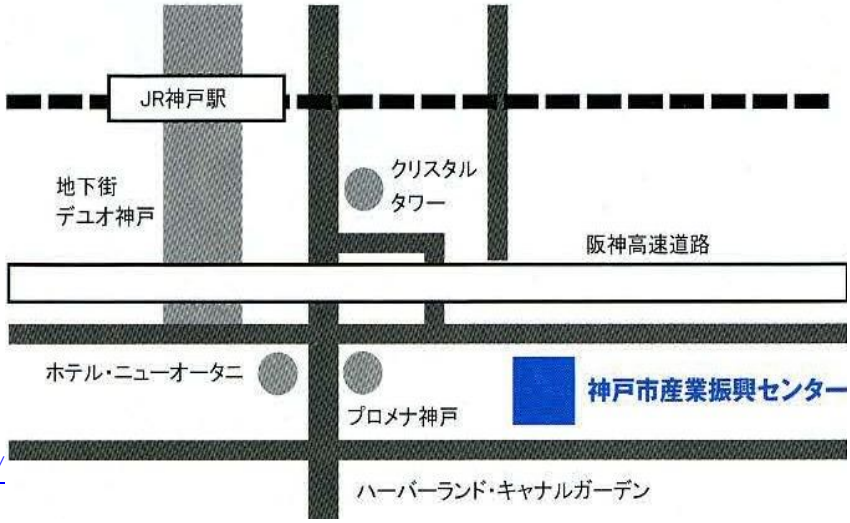
「神戸は変わる。」まで、震災復興は終わらない

◆日　時：2009年12月1日（火）　18：30～20：30

◆会　場：神戸市産業振興センター901号室

◆参加費：1000円

市民的に、オープンに
神戸市長選挙の反省と展望を
語り合いましょう。



◆主　催：神戸再生フォーラム◆

650-0027　神戸市中央区中町通 3－1－16
サンビル 201

電話＆FAX　078-371-4595

Ｅメール k-saisei@coral.plala.or.jp

公式サイト http://www.rekobe.net/

ブログ http://blog.livedoor.jp/re_kobe/

郵便振替：神戸再生／00910-8-264805